

**平成29年度大学教育再生戦略推進費
「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材
(がんプロフェッショナル)」養成プラン」
申請書**

【様式1】

事業の構想等

申請担当大学名 (連携大学名)	近畿大学(大阪市立大学、神戸大学、関西医科大学、兵庫医科大学、大阪府立大学、神戸市看護大学)計7大学
事業名 (全角20字以内)	7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

<p>〈テーマに関する課題〉</p> <p>わが国において、がん対策は喫緊の社会問題であるが、近年、多様化するがん医療において直面する新たなニーズや課題に対応することが求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ゲノム医療の実用化に向けての課題</u>：ゲノム情報に基づくがんの個別化医療を実現するための基盤整備や情報技術の発展が課題であり、<u>遺伝カウンセリング体制構築やゲノム研究の推進及びこれらに係る人材養成が必要となる。</u> ・ <u>希少がん及び小児がんにおける課題</u>：専門医や医療機関等の情報が不足していること、希少がんの病理診断が困難であること、研究推進体制が不十分であること、小児がん患者・家族に対する医療や支援の提供体制にさらなる強化が必要であることが課題であり、<u>専門医及び多職種連携チーム医療を実践できる人材養成が必要となる。</u> ・ <u>異なるライフステージのがん患者に生じる特有の課題</u>：AYA世代、壮年層、高齢者といったライフステージごとに異なる身体的、精神・心理的、社会的問題等が顕在化しており、これらの問題に適切に対応することが課題である。様々な支援や緩和ケアを実践し、<u>ライフステージに応じたがん対策を推進できる多職種の医療人材養成が必要となる。</u>
<p>〈事業の概要〉(400字以内厳守)</p> <p>本プランの目的は、<u>阪神地区の国公立7大学9学部の医学、看護学、薬学、理工学系大学院研究科が相互連携し、多様化する新ニーズに対応した個別化医療を実践できるがん専門医療人を養成することである。</u>目的達成のために、3つの<u>タスクフォース(TF)</u>を立ち上げ、ゲノム医療、希少がん及び小児がん、ライフステージに応じて生じる様々な課題等に対して取り組む。「<u>TF 1 ゲノム・サイエンス</u>」では、ゲノム医療を構築し連携大学間及び産学官共同研究を推進する。「<u>TF 2 教育イノベーション</u>」では、<u>個別化医療を実現するための革新的な教育プログラムの開発を促進する。</u>「<u>TF 3 マルチパートナーシップ・アライアンス</u>」では、<u>地域医療機関、自治体・公的機関、がんサバイバーを含む患者会、NPO法人等との連携・支援体制を強化する。</u>各タスクフォースが有機的に連携することによって、<u>患者中心の個別化医療を実践できるがん専門医療人が養成される。</u></p>

②大学・学部等の教育理念・使命(ミッション)・人材養成目的との関係

<p>本プランでは、<u>ゲノム医療、希少がん、小児がん、ライフステージごとに生じる様々な問題等にも適切に対応し、科学的合理性と倫理的妥当性に基づいた、患者中心の個別化医療を実現できる高度ながん専門医療人を養成することを目的とする。</u>本プランの主管校である近畿大学では、建学の精神である「<u>実学教育と人格の陶冶</u>」を実践するために掲げられた教育理念「<u>人に愛され、信頼され、尊敬される人の育成</u>」に則った医療人の養成を行っている。一方、連携大学である大阪市立大学では、「<u>智・仁・勇</u>」の基本理念のもとに、人の悩みや痛みを受け止めることができ、深く暖かい心を持ち高度な医療を実践できる人材や最先端の創造的医学研究を達成し世界的に活躍する研究指導者を育成している。また、神戸大学では、旺盛な探求心と創造力を有する科学者としての視点をもち、グローバルな視点で活躍できる医師及び医学研究者の養成を積極的に推進することを教育理念とする等、全ての連携大学に共通する、「<u>豊かな人間性と卓越した知識・技能を有し、社会貢献できる医療人の育成</u>」という教育理念・使命(ミッション)及び人材養成の目的は、本プランの目的に合致している。</p>

③新規性・独創性

ゲノム医療の推進には、遺伝カウンセラーを含む多職種連携チーム医療の実施体制の構築が必要不可欠となる。しかし、わが国において、遺伝カウンセラー認定養成課程は全国14の教育機関に開講されているのみで、不足する遺伝カウンセラーの養成が喫緊の課題である。近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻・遺伝カウンセラー養成課程は、理工学部生命科学科を母体として開設された唯一の大学院講座である。本プランでは、同学科と連携して、既存の課程に医学・薬学系大学院が融合することで、がんに特化した斬新な履修プログラムを構築し、座学に加えて細胞培養技術、核酸抽出法、PCR法、遺伝子発現解析、染色体分析法等の実習をより一層充実させることによって、新しくがんに精通した遺伝カウンセラーを養成することが可能となる。これにより、がん患者・家族に対する遺伝カウンセリング実施体制を整備し、包括的ケアを実践できる、実装化された質の高いゲノム医療を社会に提供できる本プランは、極めて独創性が高い。一方、多職種を対象としたインテンシブコースでは、不足する遺伝カウンセリングに習熟したがん専門医療人を養成することが可能となり、新規性のある取組と考える。また、医学研究科博士課程には、希少がん、小児がん、AYA世代がんに対する専門性を高めた医師を養成する大学院コースを、新しく3大学に計3コース開講する。近畿大学医学部は、これまでに生殖細胞系列遺伝子解析による遺伝性・家族性腫瘍の診断及び体細胞遺伝子異常に応じた、がん治療選択等に関する臨床研究やがん関連医師主導治験の豊富な実績を有することから、本プランでは、同大学を中心とする連携大学間共同研究体制を新たに構築し、次世代シーケンサーを用いたがん組織の体細胞遺伝子解析（クリニカルシーケンス）の最適化や希少がん、遺伝性・家族性腫瘍の診断性能向上を目的とした共同研究を推進する。先進的かつ革新的ながんゲノム研究・教育拠点が形成されることによって、研究成果の社会への還元のみならず、ゲノム医療人材の恒常的な養成と輩出が可能となる。緩和ケアに関して、連携大学である神戸大学は、本邦初となるアドバンス・ケア・プランニングの実際的なプログラムを国立長寿医療センターと共同開発したことから、同大学先端緩和医療学分野は緩和医療研究の推進において指導的立場にある講座として位置づけられている。本プランは、神戸大学及び近畿大学の緩和医療系講座が協同することによって、最新の治療とケアに精通し地域の様々なライフステージのがん患者・家族に対して適切なケアを提供できる多職種医療人材を養成できる強みを有する。

④社会との関係（がん患者及びその家族等の視点）

これまで、近畿大学と連携大学は共同して、がんサバイバーを含む勉強会や患者会を定期的に開催し、これらを支援するNPO法人との相互連携や人的交流を図ってきた。本プランでは、これらの実績を活かして、勉強会や患者会をより充実した形で継続・強化することで、がん患者と家族が必要とする要求を十分理解し、患者中心の医療に反映する取組を実施する。異なるライフステージの患者に寄り添う臨床研究コーディネーターを養成することで、これまで治験や臨床試験の対象となる機会が少なかった小児・AYA世代がん患者に対する新しい治療法の開発を促進する。連携大学である神戸大学では、就労相談、ピアサポーター養成、フォローアップ研修、平成28年度からは政府関連事業として、「人生の最終段階における医療体制整備事業」を実施している。「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」に基づいた「意思決定支援教育プログラム（E-FIELD: Education For Implementing End-of-Life Discussion）」を用いて研修会を実施し、相談体制の整備が図られた。これらの取組の成果を活用して、本プランの中のがん看護のインテンシブコースのひとつに、「エンド・オブ・ライフ」をテーマにしたコースを新規開講し、患者の視点からの終末期医療について学ぶ機会を設ける。

⑤キャリア教育・キャリア形成支援（男女共同参画、働きやすい職場環境、勤務継続・復帰支援等も含む。）

がん医療において次世代を担う若手医師、看護師、薬剤師、医学物理士などの多職種医療人材及び医学生を対象として、大学院博士課程への入学促進を主な目的とする講習会「次世代医療人養成が
んプロセミナー」を開催する。この中で、教員と第1期・2期がんプロ修了生によって形成されるメンターチームが、キャリア形成やキャリアパスについて教育するとともに継続的な相談支援体制を構築する。連携大学である大阪市立大学では、男女共同参画を推進する目的で、離退職した女性医師、看護師に対するスキルスシュミレーションセンターでの実技講習やeラーニングによる復職研修・再就職支援等を実施するとともに、「大阪市女性医師ネットワーク」と連携した女性医師・看護師の子育てとキャリアアップ両立支援についての地域連携システムを構築している。また、神戸大学では、医学部附属病院D&Nplusブラッシュアップセンターが、県医師会や県女性医師の会等とも密接な連携を図り、妊娠中、育休中、介護休暇等に係る就労支援、復職相談に対応する他、子育て中の女性教員が、研究・教育サポート人材バンクへの登録を通じてその能力を発揮できる機会を提供している。これらの実績を活かして、本プランでは、女性医師・研究者支援セミナー、看護師キャリア形成支援セミナー及び医師のワークライフバランスについて考えるフォーラムを開催し、育児や介護等の家庭生活とがん診療・研究や看護との両立を図るための情報収集や活動等を支援する。

⑥達成目標・評価指標

【教育プログラム・コース】

・博士課程大学院コースは、平成29年10月及び平成30年4月に、インテンシブコースは、平成29年10月、平成30年2月、4月及び6月に開講する。博士課程大学院コース27コース（医学研究科23、看護学研究科2、薬学研究科1、理工学研究科1）及びインテンシブコース18コースを実施する。

・博士課程大学院コースの受入目標人数は総数230名で、その内訳は、医学研究科・医師対象160名（平成29年度：14名、30年度：36名、31年度：36名、32年度：38名、33年度：36名）、医学研究科・医学物理士対象18名（平成30年度：6名、31～33年度：各4名）、医学研究科・薬剤師対象8名（平成30～33年度：各2名）、看護学研究科・看護師対象20名（平成30年度：8名、31～33年度：各4名）、薬学研究科・薬剤師対象4名（平成30～33年度：各1名）、理工学研究科・大学院生20名（平成30～33年度：各5名）である。インテンシブコースの受入目標人数は総数844名で、その内訳は、医学研究科・医師対象53名（平成29年度：9名、30～33年度：各11名）、医学研究科・看護師対象29名（平成29年度：5名、30～33年度：各6名）、医学研究科・薬剤師対象15名（平成29～33年度：各3名）、医学研究科：リハビリ専門職対象50名（平成29～33年度：各10名）、医学研究科：多職種対象111名（平成29年度：11名、30～33年度：各25名）、理工学研究科：多職種対象200名（平成29～33年度：各40名）、看護学研究科・看護師対象386名（平成29年度：50名、30～33年度：各84名）である。

・従来の共通講義である「共通特論Ⅰ・Ⅱ」に、新たに個別化医療実現に必要なプログラムを充実・強化した、新「共通特論Ⅰ・Ⅱ」の開講（31コマ/年、平成29～34年度：全大学院生及びインテンシブコース生の一部対象、全大学）

・「模擬患者による多職種参加型個別化医療課題演習（SPを用いた職種横断的臨床課題演習：以下、SP演習）」及び「多職種参加型症例検討演習（職種横断的ケーススタディ演習：以下、CS演習）」の実施（各1回/年、平成29～34年度：大学院生及びインテンシブコース生の一部対象、該当大学）

【セミナー・講演会・シンポジウム・協議会等】

・がんゲノム医療実用化に必要とされる多職種医療人育成セミナー「がんゲノム医療スキルアップセミナー」開催（1回/年、3部構成、平成29～33年度：各50名、全大学）

・希少がん及び小児・AYA世代・壮年期の各世代のがん患者会（がんサバイバーを含む）、NPO法人との相互連携・情報発信を目的としたセミナー開催（1回/年、平成29～33年度：各100名、全大学）

・「大阪地区がん診療連携推進協議会」開催（1回/年、平成29～33年度：各50名、全大学）

・「次世代医療人養成がんプロセミナー」開催（1回/年、平成29～33年度：各80名、全大学）

・海外のアカデミアや医療機関と連携し、グローバルな視点からがん研究を遂行できる若手医療人の研究発表会「国際がん研究シンポジウム」開催（1回/年、平成29～33年度：各250名、全大学）及び「ハーバード大学国際臨床研究者養成プログラム」履修（1回/年、平成29～33年度：各1名、候補者：全大学）

・ゲノム医療・希少・小児・AYA世代がんの診療・研究に実績豊富な海外医療機関への教員派遣研修「グローバルFD研修」の実施（1回/年、平成29～33年度：各8名、全大学）

・多職種がん専門医療人のキャリア教育・形成支援セミナー開催（1回/年、平成30～33年度：各50名、全大学）

【連携大学間及び産学官共同研究】

・がんのクリニカルシーケンスの最適化や希少がん、遺伝性・家族性腫瘍の診断向上を目指した共同研究の実施（研究期間：平成30～33年度、目標症例数：50例、医学系大学）

・「AYA世代がん医療に関する実態調査研究」の実施（調査期間：平成30～33年度、目標症例数：100例、全大学）

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

①事業の実施体制

本プランでは、各連携大学の学長もしくは学部長を構成メンバーとするプロジェクト統括会議を最高意思決定会議体として設置する。その下部組織として、各連携大学のプロジェクト運営推進委員によって構成されるプロジェクト運営推進委員会を定期的に開催し、3つのタスクフォース（ゲノム・サイエンス、教育イノベーション、マルチパートナーシップ・アライアンス）の活動状況を確認するとともに、必要に応じてアクションプランの見直しを図る。

②事業の評価体制

審査機関として、外部評価委員による活動成果評価委員会を設置し、本プラン全体の進捗状況と各取組の成果を毎年審査する。審査結果及び指摘を受けた改善点等を、プロジェクト統括会議、進捗管理・運営協議を行う委員会であるプロジェクト運営推進委員会及び各連携大学にフィードバックすることによって、事業の軌道修正を行う。最終的に、本プランによって養成された、がん医療の多様な新ニーズに対応し個別化医療を実践できるがん専門医療人の活動状況を調査し成果を評価する。

③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

ゲノム・サイエンス、教育イノベーション、マルチパートナーシップ・アライアンスの3つのタスクフォースが有機的に連携を強化することで、プラン全体の円滑な推進を図る。各タスクフォースには、アクションプラン遂行に関して指導的役割を果たすリーダー校（ゲノム・サイエンス：近畿大学医学部、教育イノベーション：大阪市立大学、マルチパートナーシップ・アライアンス：神戸大学）を設置するが、各連携大学は、全てのタスクフォースに参画する。これによって、様々な取組から得られるメリットが、全連携大学及び本プラン全体に波及することが期待される。医学系連携大学においては、小児がん、AYA世代がん、希少がん、遺伝性・家族性腫瘍に対応するために、既存の腫瘍関連講座間連携に加えて、小児科、乳腺内分泌外科、産婦人科、消化管外科、泌尿器科、脳神経外科、頭頸部外科、病態検査学等の講座や臨床遺伝部、遺伝子診断部等の病院部署との新しい連携体制を構築する。連携を拡充し強化することで、これらの腫瘍の症例数を確保できる。これらの腫瘍のケアにおける遺伝カウンセラーについては、養成課程における実習施設に全連携大学附属病院を加えることによって、さらに充実することが見込まれる。一方、外部機関としては、地域がん診療連携拠点病院、がん診療拠点病院、地域基幹病院、緩和ケア教育実習施設、在宅緩和ケア診療所等との既存の連携体制を強化するとともに、小児がん拠点病院である大阪母子医療センター及び兵庫県立こども病院との新たな連携体制を構築する。また、兵庫県粒子線医療センターと連携し、最新の放射線治療を提供する体制を整備する。「大阪地区がん診療連携推進協議会」を開催し、大阪府、医師会、看護協会、薬剤師会、地域基幹病院・診療所等との密接な連携を図り、地域がん診療における多職種連携チーム医療のさらなる推進に努める。民間企業との産学連携共同研究を推進し、ゲノム情報に基づく個別化治療法や希少がんに対する革新的治療法の開発やアカデミア発のシーズの実用化に繋げる。これまでに培われた海外のアカデミアやがん研究機関との人的交流、情報交換、共同研究をさらに充実・発展させて、グローバルな視点からがん研究を遂行できる医療人を養成する。小児、AYA世代、壮年期、高齢者等のライフステージに応じたがん患者団体・患者会、希少がんの患者会、及びこれらを支援するNPO法人との相互連携を強化する。この相互連携によって、医療者ががん患者・家族にとって真に必要なとされる支援を再認識し、がんサバイバーシップへの支援体制を確立する。日本臨床腫瘍学会をはじめとするがん関連、緩和医療、放射線治療、遺伝、看護系、薬学系の学会等との密接な連携を図ることによって、本プランにおける取組のブラッシュアップに繋げる。

(2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する構想

補助金事業終了後の事業継続に関しては、各連携大学における自助努力によって運営財源を確保することで可能とする。さらに、これまで、「6大学連携オンコロジー養成プラン」及び「7大学連携先端のがん教育基盤創造プラン」に対する支援事業を展開してきた特定非営利活動法人「近畿がん診療推進ネットワーク」からの継続的な支援を受けて、がん専門医療人養成においてニーズの高い取組を継続する。

②事業成果の普及に関する計画

各連携大学のホームページ上に、本プランのウェブサイトを構築し、事業成果を随時公開する。国民の注目度が高い取組に関しては、新聞や雑誌等のメディアへの掲載を通じて、その成果を社会に発信するように努める。市民公開講座や医療従事者を対象とした公開シンポジウムを毎年開催し、事業成果を広く普及させる。本プラン終了後には、事業成果を総括した簡易版冊子を作成し、全国の医療機関や自治体等へ配布する。学術的研究成果に関しては、がん関連学会での発表及び学術誌への論文発表を行う。本プランによって養成され、地域やグローバルに輩出されたがん専門医療人自らが、事業成果を社会へ還元し普及して行く。

3. 年度別の計画

(1) 年度別の計画

29年度	<p>①教育プログラム・コース関連の取組 7月：新「共通特論Ⅰ・Ⅱ」開講、ハーバード大学国際臨床研究者養成プログラム履修開始 10月：博士課程大学院コース計8コース（神戸大学、関西医科大学）・インテンシブコース計12コース（近畿大学医学部・理工学部、神戸大学、兵庫医科大学、神戸市看護大学）受入・開講 11月：模擬患者による多職種参加型個別化医療課題演習（SP演習）実施 2月：インテンシブコース1コース（大阪府立大学）開講、多職種参加型症例検討演習（CS演習）実施 3月：共同研究の倫理審査申請・承認</p> <p>②委員会・会議関連の取組（「フォローアップ活動」への対応含む） 7月：プロジェクト統括会議、プロジェクト運営推進委員会開催 10月：プロジェクト統括会議、大阪地区がん診療連携推進協議会開催 1月：プロジェクト運営推進委員会開催 3月：活動成果評価委員会開催</p> <p>③講演会・セミナー等関連の取組 1月：次世代医療人養成がんプロセミナー開催 2月：国際がん研究シンポジウム開催、グローバルFD研修実施 3月：希少がん及び小児・AYA世代・壮年期の各世代のがん患者会、NPO法人との共催セミナー開催</p>
30年度	<p>①教育プログラム・コース関連の取組 博士課程大学院コースの計19コース（全大学）受入・開講、インテンシブコース計5コース（近畿大学医学部、大阪市立大学、大阪府立大学、神戸市看護大学）受入・開講、新「共通特論Ⅰ・Ⅱ」開講、ハーバード大学国際臨床研究者養成プログラム履修、共同研究の開始、模擬患者による多職種参加型個別化医療課題演習（SP演習）、多職種参加型症例検討演習（CS演習）の実施</p> <p>②委員会・会議関連の取組（「フォローアップ活動」への対応含む） プロジェクト運営推進委員会（2回）、大阪地区がん診療連携推進協議会、プロジェクト統括会議、活動成果評価委員会開催</p> <p>③講演会・セミナー等関連の取組 がんゲノム医療スキルアップセミナー、次世代医療人養成がんプロセミナー、多職種がん専門医療人のキャリア教育・形成支援セミナー、国際がん研究シンポジウム、希少がん及び小児・AYA世代・壮年期の各世代のがん患者会、NPO法人との共催セミナー開催、グローバルFD研修実施</p>

31年度	<p>①教育プログラム・コース関連の取組 博士課程大学院コース・インテンシブコースの受入・開講（全大学）、新「共通特論 I・II」開講、ハーバード大学国際臨床研究者養成プログラム履修開始、共同研究の継続推進、模擬患者による多職種参加型個別化医療課題演習（SP演習）、多職種参加型症例検討演習（CS演習）の実施</p> <p>②委員会・会議関連の取組（「中間評価」への対応含む） プロジェクト運営推進委員会（2回）、大阪地区がん診療連携推進協議会、プロジェクト統括会議、活動成果評価委員会開催</p> <p>③講演会・セミナー等関連の取組 がんゲノム医療スキルアップセミナー、次世代医療人養成がんプロセミナー、多職種がん専門医療人のキャリア教育・形成支援セミナー、国際がん研究シンポジウム、希少がん及び小児・AYA世代・壮年期の各世代のがん患者会、NPO法人との共催セミナー開催、グローバルFD研修実施</p>
32年度	<p>①教育プログラム・コース関連の取組 博士課程大学院コース・インテンシブコースの受入・開講（全大学）、新「共通特論 I・II」開講、ハーバード大学国際臨床研究者養成プログラム履修開始、共同研究の継続推進、模擬患者による多職種参加型個別化医療課題演習（SP演習）、多職種参加型症例検討演習（CS演習）の実施</p> <p>②委員会・会議関連の取組（「フォローアップ活動」への対応含む） プロジェクト運営推進委員会（2回）、大阪地区がん診療連携推進協議会、プロジェクト統括会議、活動成果評価委員会開催</p> <p>③講演会・セミナー等関連の取組 がんゲノム医療スキルアップセミナー、次世代医療人養成がんプロセミナー、多職種がん専門医療人のキャリア教育・形成支援セミナー、国際がん研究シンポジウム、希少がん及び小児・AYA世代・壮年期の各世代のがん患者会、NPO法人との共催セミナー開催、グローバルFD研修実施</p>
33年度	<p>①教育プログラム・コース関連の取組 大学院コース・インテンシブコースの受入・開講（全大学）、新「共通特論 I・II」開講、ハーバード大学国際臨床研究者養成プログラム履修開始、共同研究の終了及び成果報告、模擬患者による多職種参加型個別化医療課題演習（SP演習）、多職種参加型症例検討演習（CS演習）の実施</p> <p>②委員会・会議関連の取組（「フォローアップ活動」への対応含む） プロジェクト運営推進委員会（2回）、大阪地区がん診療連携推進協議会、プロジェクト統括会議、活動成果評価委員会開催</p> <p>③講演会・セミナー等関連の取組 がんゲノム医療スキルアップセミナー、次世代医療人養成がんプロセミナー、多職種がん専門医療人のキャリア教育・形成支援セミナー、国際がん研究シンポジウム、希少がん及び小児・AYA世代・壮年期の各世代のがん患者会、NPO法人との共催セミナー開催、グローバルFD研修実施</p>
34年度 [補助期間 終了後]	<p>①教育プログラム・コース関連の取組 補助事業終了後も継続が承認された博士課程大学院コース及びインテンシブコース開講（連携大学）、新「共通特論 I・II」開講、ハーバード大学国際臨床研究者養成プログラム履修開始、模擬患者による多職種参加型個別化医療課題演習（SP演習）、多職種参加型症例検討演習（CS演習）の実施</p> <p>②委員会・会議関連の取組（「事後評価」への対応含む） プロジェクト運営推進委員会（2回）、大阪地区がん診療連携推進協議会、プロジェクト統括会議、活動成果評価委員会開催</p> <p>③講演会・セミナー等関連の取組 次世代医療人養成がんプロセミナー、国際がん研究シンポジウムの開催</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	分子腫瘍内科学コース						
対象者	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん薬物療法のスペシャリストであると同時に、分子標的治療薬を含む薬物療法に関わる臨床試験やトランスレーショナルリサーチを推進することができ、国際競争力を有する人材を育成する。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位と臨床腫瘍学関連の選択科目6単位以上、合計30単位以上を修得し、血液腫瘍を含めた4臓器以上の癌化学療法の臨床実習を行い30例のがん薬物療法実施症例の要約を作成し、日本臨床腫瘍学会専門医試験を受験する。4年修了時にはがん研究関連の博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。						
履修科目等	<p><必修科目> 共通特論Ⅰ（2単位）、共通特論Ⅱ（2単位）、がん緩和医療演習（2単位）、腫瘍内科学実習Ⅰ（8単位）、SPを用いた職種横断的臨床課題演習（1単位）、職種横断的ケーススタディ演習（1単位）、血液腫瘍学実習（4単位）、放射線腫瘍学実習（4単位）</p> <p><選択科目> 分子腫瘍学（2単位）、がん薬物治療学（2単位）、臨床腫瘍学演習Ⅰ（4単位）、がん臨床研究計画演習（2単位）、腫瘍内科実習Ⅱ（6単位）他10科目</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	初期研修から博士課程を両立させ、がんの基礎・臨床研究を有機的に融合したプログラムを用いる。特に、ゲノム生物学教室と共同で、トランスレーショナルリサーチを行う。海外機関提携プログラムを持つことで国際競争力のあるがん研究者を養成する。						
指導体制	がん薬物療法専門医、血液専門医、放射線腫瘍専門医等からなる専門医チームが臨床研修指導および基礎研究指導を行う上に、ゲノム生物学教室と協力することで分子腫瘍学の理解を深められるよう教育体制をとっている。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん薬物療法専門医の取得および、基礎医学から臨床研究転用までの幅広い知識を有する多癌腫対応可能かつライフステージに応じた医療従事者として大学病院もしくは関連施設でのリーダーとしての活躍を期待する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
受入目標人数	大学院生	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科医学系						
教育プログラム・コース名	新ニーズ対応型造血器腫瘍・がん薬物療法専門医コース						
対象者	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	造血器腫瘍、がん薬物療法のスペシャリストであると同時に、ゲノム情報の解析結果に基づいて個々人のがん治療方針を決定できる能力を身に着け、分子標的治療薬を含む薬物療法に関わる臨床試験やトランスレーショナルリサーチ並びに基礎研究を推進することができ、国際競争力を有する人材。さらに新ニーズである希少がんにも対応でき、世代ごとに応じたがん治療を実践できる人材。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位と血液腫瘍学関連の選択科目6単位以上、合計30単位以上を修得し、血液腫瘍を含めた4臓器以上のがん化学療法の臨床実習を行い、日本臨床腫瘍学会専門医試験の受験資格を取得する。4年修了時にはがん研究関連の博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。						
履修科目等	<必修科目> 血液腫瘍学実習Ⅰ（14単位）、臨床腫瘍学実習（4単位）、共通特論Ⅰ（2単位）、共通特論Ⅱ（2単位）、がん緩和医療演習（2単位） <選択科目> 血球発生学（2単位）、分子病態学（2単位）、造血器腫瘍学（2単位）、職種横断的ケーススタディ演習（1単位）、SPを用いた職種横断的臨床課題演習（1単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	造血器腫瘍を含むがんの基礎・臨床研究を有機的に融合したプログラムを用い、がん研究者を養成する。またゲノム情報の解析結果に基づいて個々人のがん治療方針を決定できる能力を身に着け、希少がんにも対応でき、世代ごとに応じたがん治療を実践できる人材を養成する。						
指導体制	近畿大学大学院医学研究科の血液内科学部門にはがん薬物療法専門医3名と、血液内科専門医が11名在籍しており、豊富な症例が経験でき、基礎・臨床研究の指導ができる体制が整っている。また腫瘍内科学部門では希少がんを含む多岐にわたるがん症例を経験できる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	日本臨床腫瘍学会専門医と医学博士号を取得する。その後血液専門医を取得し、大学の血液内科部門で血液専門医として指導者となるか特定機能病院に就職し血液・腫瘍内科専門医として勤務する。海外留学し、さらに研究者としての実績を積む選択もある。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	博士課程	0	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	放射線腫瘍学先端研究者養成コース						
対象者	医学研究科大学院生、病院勤務医師 等						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	放射線腫瘍学における臨床・研究のリーダ的役割を担える人材の育成。						
修了要件・履修方法	・必修科目24単位以上を履修し、英語原著論文を書くこと。						
履修科目等	<p><必修科目> 共通特論Ⅰ（2単位）、放射線腫瘍学総論（2単位）、放射線生物学（2単位）放射線治療計画法演習（2単位）、放射線腫瘍学実習（4単位）、腫瘍内科学実習（4単位）、放射線診断学実習（4単位）、腫瘍画像診断学実習（4単位）</p> <p><選択科目> 高精度放射線治療学（2単位）、放射線医学物理学（2単位）、共通特論Ⅱ（臨床腫瘍学各論）（2単位）、連携病院放射線腫瘍学実習（4単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	共通特論や腫瘍内科学実習を通じて、臨床腫瘍学の幅広い領域を学習する。連携病院放射線腫瘍学実習を通じて、粒子線治療なども研修できる。						
指導体制	放射線腫瘍医5名が中心となって教育を担う。その他、放射線診断医、内科医、その他関連する医師が講義・実習を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	卒業後放射線治療専門医と医学博士を獲得し、助教として大学に残るか関連施設で放射線腫瘍医として勤務する。希望者には留学を許可する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	先端医学物理研究者養成コース						
対象者	医学研究科大学院生、医学物理士、診療放射線技師 等						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	放射線治療・放射線診断における医学物理学研究の立案・遂行・評価ができる。放射線治療の治療計画・品質管理のリーダー的役割を担える人材の育成。						
修了要件・履修方法	・必修科目 24 単位以上を履修し、英語論文を書くこと。						
履修科目等	<p><必修科目> 共通特論 I（2 単位）、放射線医学物理（2 単位）、放射線安全・放射線防護（2 単位）、放射線医学総論（2 単位）、高精度放射線治療学（2 単位）、放射線腫瘍学総論（2 単位）、解剖学・生理学概論（2 単位）、放射線治療計画法演習（2 単位）、放射線医学物理実習（8 単位）</p> <p><選択科目> 共通特論 II（臨床腫瘍学各論）（2 単位）、放射線生物学（2 単位）、放射線腫瘍学実習（2 単位）、腫瘍画像診断学実習（2 単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	臨床にマッチした医工連携研究の推進。近大原子炉やゲノム医療との連携と共同参画。						
指導体制	医学物理士 3 名（常勤 1 名、非常勤 2 名）、放射線腫瘍医 5 名が中心となって教育を担う。その他、放射線診断医 2 名、解剖学医師 1 名、生理学医師 1 名が講義・実習を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	専門性を持ちつつ、治療・診断領域で柔軟な応用力・リーダーシップを発揮し、近い将来に国際的な医学物理学領域のドライバーズシートを担うことができる。						
受入開始時期	平成 30 年 4 月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学物理士・診療放射線技師	0	4	2	2	2	10
	計	0	4	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科医学系緩和医療学						
教育プログラム・コース名	がん緩和医療専門医養成コース						
対象者	大学院医学研究科医学系緩和医療学専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	腫瘍学の知識に基づいた緩和医療学の知識、技術を習得し、ゲノム医療への理解を深め、将来的には大学機関などで研究を実践できる。また、将来、大学内および地域の中核的施設で、地域連携や多職種連携チーム医療の中心的人物となり、希少がん・小児がんへの対応や、がん患者のライフステージに応じたがん医療の実践と関係者への教育・啓蒙を担っていけるような人材を養成する。						
修了要件・履修方法	原則として4年間のうち前半2年間で必修科目24単位以上と選択科目6単位以上、合計30単位以上を取得する。後半の2年間は大学担当教員の指導のもとに専門領域の研究に従事し、論文を作成して、最終試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目> 共通特論Ⅰ・Ⅱ（各2単位）、がん緩和医療演習Ⅰ・Ⅱ（各1単位）、職種横断的ケーススタディ演習（1単位）、SPを用いた職種横断的臨床課題演習（1単位）、緩和医療学実習Ⅰ（6単位）、腫瘍内科学実習（8単位）、がん緩和臨床研究計画演習（2単位）、がん医療地域連携演習（1単位）</p> <p><選択科目> 分子腫瘍学（2単位）、がん薬物治療学（2単位）、サイコオンコロジー（2単位）、腫瘍内科学特論（2単位）、緩和医療学演習Ⅰ（身体）・Ⅱ（精神）（各4単位）、緩和医療学実習Ⅱ（6単位）、緩和医療学教育実習（6単位）、腫瘍内科学実習Ⅱ（6単位）、血液腫瘍学実習（4単位）、放射線腫瘍学実習（4単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	基本的な腫瘍学・緩和医療学の知識、技術の習得に加えて、ゲノム医療の観点からの研究を促進していく。また、希少がんへの対応や小児から高齢者までのライフステージに応じたがん医療の実践を目指して、地域連携の強化や多職種連携チーム医療を念頭においた教育を推進していく。						
指導体制	近畿大学医学部腫瘍内科、心療内科（緩和ケア担当）、放射線腫瘍科、血液内科学の教授・准教授が教官として各専門分野の講義、演習、実習を行うとともに、各領域間の連携を取りながら、包括的な指導を行なう。また、上記の教育内容の達成のために、基礎教室（ゲノム教室）、小児科、小児外科など関連領域からの教官の招聘あるいは学生の実習での出向や、地域連携のために外部機関との相互交流を図りながら指導していく。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	医学博士号と緩和医療専門医資格の両者を取得し、大学内および地域の中核的関連施設で、緩和医療の実践と研究および教育・啓蒙の中心的人物として活動していく。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科医学系						
教育プログラム・コース名	分子腫瘍内科学コース（インテンシブ）						
対象者	近畿圏でがん薬物療法診療に携わっている医師						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がん薬物療法のスペシャリストであると同時に、分子標的治療薬を含む薬物療法に関わる臨床試験やトランスレーショナルリサーチを推進することができ、国際競争力を有する人材を育成する。						
修了要件・履修方法	共通特論I、IIを履修し、大学附属病院等において4週間のがん薬物療法の臨床実習を行い、臨床研究課題に対する試験を考察する。実習では複数がん種のがん化学療法の実際を体得する。修了者には分子腫瘍内科学コース修了証を授与する。						
履修科目等	共通特論I、IIを受講し、がんの生物学、病理学、疫学などの基礎的知識、悪性腫瘍の薬物療法、放射線治療、外科治療の基本的事項、抗がん剤の種類と作用機序、臨床薬理、毒性とその対策、がん患者とのコミュニケーションや緩和ケアなど臨床腫瘍の総論を学習する。各論として臨床試験概論や臨床統計学を学習する。4週間の実習を必須とし、大学病院がんセンターあるいは連携病院の薬物療法部門において実際に臨床試験参加がん患者を担当して化学療法を実践をする。実習期間中は臓器・職種横断的症例検討会に参加してがん患者の治療方針の決定過程を学習し、臨床試験のインフォームド・コンセントと治療の選択、治療中の患者の管理方法を体験し、さらに緩和ケアチームにも参加してがんのチーム医療が実践できるようにする。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	初期研修から博士課程を両立させ、がんの基礎・臨床研究を有機的に融合したプログラムを用いがん研究者を養成する。						
指導体制	がん薬物療法専門医、血液専門医、放射線腫瘍専門医等からなる専門医チームが臨床研修指導および基礎研究指導を行う上に、ゲノム生物学教室と協力することで分子腫瘍学の理解を深められるよう教育体制をとっている。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん薬物療法専門医の取得および、基礎医学から臨床研究転用までの幅広い知識を有する多癌腫対応可能かつライフステージに応じた医療従事者として大学病院もしくは関連施設でのリーダーとしての活躍を期待する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	ゲノム医療に強い多職種がん専門医療人養成コース（インテンシブ）						
対象者	多職種（医者、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、ソーシャルワーカー）を対象						
修業年限（期間）	2年間						
養成すべき人材像	クリニカルシーケンスに精通しているゲノム医療に特化した専門人を育成する。						
修了要件・履修方法	共通特論Ⅰ、Ⅱを履修し、大学附属病院等において4週間のがん薬物療法の臨床実習を行い、臨床研究課題に対する試験を考察する。実習では実際の症例のシーケンスデータを用いた解析を行う。修了者にはゲノム医療に強い多職種がん専門医療人養成コース修了証を授与する。						
履修科目等	共通特論Ⅰ、Ⅱを受講し、がんの生物学、病理学、疫学などの基礎的知識、悪性腫瘍の薬物療法、放射線治療、外科治療の基本的事項、抗がん剤の種類と作用機序、臨床薬理、毒性とその対策、がん患者とのコミュニケーションや緩和ケアなど臨床腫瘍の総論を学習する。各論として臨床試験概論や臨床統計学を学習する。4週間の実習を必須とし、大学病院がんセンターあるいは連携病院の薬物療法部門において実際に臨床試験参加がん患者を担当して化学療法を実践をする。実習期間中は臓器・職種横断的症例検討会に参加してがん患者の治療方針の決定過程を学習し、臨床試験のインフォームド・コンセントと治療の選択、治療中の患者の管理方法を体験し、かつクリニカルシーケンスの実践および講義を受講する事でゲノム医療に特化したがんのチーム医療が実践できるようにする。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	初期研修から博士課程を両立させ、がんの基礎・臨床研究を有機的に融合したプログラムを用い、クリニカルシーケンスに精通したがん研究者を養成する。						
指導体制	がん薬物療法専門医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師等からなる多職種が協働しつつ、ゲノム生物学教室と協力することでクリニカルシーケンスをはじめとした分子腫瘍学の理解を深められるよう教育体制をとっている。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	大学病院や関連施設で就労しつつ、将来の認定遺伝カウンセラーの資格取得						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医療従事者	5	5	5	5	5	25
	計	5	5	5	5	5	25

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	異なるライフステージのがん患者に寄り添える臨床研究コーディネーター養成コース（インテンシブ）						
対象者	がん専門医療人（看護師・薬剤師・臨床検査技師・放射線技師・臨床心理士など）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がんの新規治療法の開発及び標準治療確立を目指した安全で質の高い臨床試験・治験を支援し、異なるライフステージの患者に寄り添うことができる医療人の育成。						
修了要件・履修方法	修了要件：共通特論を60パーセント以上出席する 履修方法：講義、演習						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通特論Ⅰ・Ⅱ ・ 実習・演習および臓器・職種横断的カンファレンスに参加（希望者のみ） 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん診療に携わる医療人を対象として、多職種を含む共通の講義に参加し、がん診療に関するチーム医療のあり方や最新の知識を習得する。さらに、臨床試験、治験に関する基礎的な知識を習得するための教育を支援する。また、希望者には大学病院において演習および実習を行い、カンサーボードにも参加することで、異なるライフステージの患者が抱える諸問題に対応できる能力を習得する。						
指導体制	がん薬物療法専門医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師等からなる多職種が協働して行う。実習・演習に関しては、上級臨床研究コーディネーターを交えた指導体制をとる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	大学病院、地域のがん診療基幹病院での臨床研究コーディネーター						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	がん専門医療人	0	5	5	5	5	20
	計	0	5	5	5	5	20

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院薬学研究科薬学専攻（博士課程）
教育プログラム・コース名	がん専門薬剤師養成コース（ライフステージ対応型）
対象者	薬学研究科薬学専攻がん専門薬剤師養成コース大学院生
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	<p>オンコロジーチームで活躍できる小児期、AYA世代、壮年期、高齢期といったライフステージに応じた緩和ケアあるいはフィジカルアセスメントさらにはがん治療を含めた在宅医療等の高度な臨床能力を有し、かつ、これらのがん治療を切り拓く臨床研究を自在に行える優れたリーダーと成り得る人材の育成。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期、AYA世代、壮年期、高齢期等のライフステージに応じた適切な緩和ケアを提供できる。 2. 小児期、AYA世代、壮年期、高齢期等のライフステージに応じた適切なフィジカルアセスメントを実施できる。 3. ライフステージに応じたがん治療における副作用の早期発見と患者急変時の対応を実施できる。 4. 地域の在宅医療において安全で質の高いがん薬物治療を提供できる。
修了要件・履修方法	4年以上在籍し、専修科目の特別実験研究10単位、それに属する科目2単位、がん薬物療法先進実務実習・臨床研究18単位、及びコース特別科目6単位の計36単位以上を履修し、論文審査及び最終試験に合格すること。
履修科目等	<p><必修科目> 共通特論Ⅰ（2単位）、共通特論Ⅱ（2単位）、がん薬物療法先進実務実習・研究（18単位）</p> <p><選択必修> 薬物治療学特別実験研究（10単位）ほか9科目、医療生物薬学系先進特論（2単位）ほか2科目</p> <p><選択科目> 職種横断的ケーススタディ演習（1単位）、SPを用いた職種横断的臨床課題演習（1単位）、がん薬物療法課題演習（1単位）</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>従来のがん専門薬剤師養成コースはライフステージ対応型とし、下記項目を追加する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフステージに応じた最適な緩和ケアを提供するためのフィジカルアセスメント実習を追加する。 2. AYA世代におけるフィジカルアセスメント（乳がん患者に対する疼痛管理）実習を追加する。 3. がん患者急変時対応実習を追加する。 4. 地域医療機関との連携により生涯教育を実施することで、地域のがん教育を推進すると共に、地域情報発信システム（CAPEL）を用いることにより、インターネットで情報を配信する。
指導体制	大学院生の指導に当たっては近畿大学大学院薬学研究科がん専門薬剤師養成コースを担当する16名の教授と13名の准教授による指導体制を構築している。

<p>教育プログラム・ コース修了者の キャリアパス構想</p>	<p>本コースのカリキュラムにがん薬物療法先進実務実習・臨床研究18単位があり、これはがん専門薬剤師研修指定病院で実施することが定められている。そのため、本コース修了者は、実習病院に勤務し、がん専門薬剤師の資格取得に必要な、5年以上の実務経験を積むことになる。修了生の多くは修了後2年以内で、受験資格を得るため、本コースの実務実習を含め、受験に必要ながん領域に関わる50単位以上の研修単位、特に本コースではライフステージ対応した抗がん剤治療、支持療法、緩和医療を含むがん薬物療法全般にわたる50症例以上のがん患者対応の実績を積み、資格試験を受験することになる。がん専門薬剤師取得後は、特に本コースにおけるライフステージに対応した緩和医療をさらに醸成するため、緩和薬物療法認定薬剤師の資格取得、あるいはがん専門薬剤師取得後、さらに5年間のがん専門薬剤師としての実績を積み、臨床研究の発表、論文投稿など、がんに関わる臨床家としての研鑽を積み、がん指導薬剤師の資格取得を目指す。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成30年4月</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H29年度</p>	<p>H30年度</p>	<p>H31年度</p>	<p>H32年度</p>	<p>H33年度</p>	<p>計</p>
	<p>大学院生</p>	<p>0</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>4</p>
	<p>計</p>	<p>0</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>4</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻
教育プログラム・コース名	遺伝カウンセラー養成課程
対象者	総合理工学研究科前期博士課程大学院生
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	<p>がん患者およびその家族を対象に次の項目ができる人材養成を行う。</p> <p>(1) 分子遺伝学を含む遺伝学およびがんゲノム学の専門的知識に基づいた適切な情報提供ができる。</p> <p>(2) 臨床背景や家族歴からがんの超ハイリスクグループの家族性（遺伝性）腫瘍例を拾い上げることができる。</p> <p>(3) ゲノム情報から家族性腫瘍の可能性を予測し、適切な遺伝医療へのサポートができる。</p> <p>(4) 遺伝学的アセスメントを含む遺伝カウンセリングの提供を行う、あるいは適切な診療部門での診療を可能にする支援ができる。</p> <p>(5) 臨床およびゲノム情報から適切な治療選択、さらにはコンパニオン診断に関してわかりやすく説明ができる。</p> <p>(6) 患者・家族自身の自己決定の支援ができる。</p> <p>(7) 疾患ごとに適切なサーベイランスの提示ができる。</p> <p>(8) 適切な遺伝カウンセリングができる。</p>
修了要件・履修方法	<p>〈修了要件〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物・環境科学特別研究（12単位）を含む15の必修科目（認定遺伝カウンセラー制度が定める）のすべて（40単位）、さらに専修科目の1科目（2単位）の課程を履修し、それぞれの試験に合格すること。 <p>〈履修方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習、実習による授業および研究の履修を行うこと。 ・生物・環境科学特別研究を行い、研究論文を提出し、最終試験の審査を受けること。
履修科目等	<p>〈必修科目〉</p> <p>人類遺伝学特論Ⅰ 講義（2単位）、人類遺伝学特論Ⅱ 講義（2単位）、人類遺伝学演習 演習（2単位）、遺伝医療と倫理 講義（1単位）、臨床遺伝学Ⅰ 講義（1単位）、臨床遺伝学Ⅱ 演習（1単位）、遺伝サービス情報学演習（1単位）、遺伝医療特論 講義（2単位）、カウンセリング特論 講義（2単位）、遺伝カウンセリングⅠ 講義（1単位）、遺伝カウンセリングⅡ 演習（演習）、医療特論 講義（1単位）、遺伝カウンセリング演習 演習（4単位）、遺伝カウンセリング実習 演習（6単位）、生物・環境科学特別研究 演習（12単位）</p> <p>〈選択科目〉</p> <p>臨床腫瘍学Ⅰ（共通特論Ⅰ）講義（2単位）、臨床腫瘍学Ⅱ（共通特論Ⅱ）講義（2単位）</p> <p>〈専修科目（1科目を選択）〉</p> <p>遺伝医学特論 講義（2単位）、病理学特論 講義（2単位）、分子神経生物学特論 講義（2単位）、ゲノム情報神経学特論 講義（2単位）、免疫分子機能特論 講義（2単位）、行動内分泌学特論 講義（2単位）、発生・生殖生物学特論 講義（2単位）、環境生物学特論 講義（2単位）、タンパク質科学特論 講義（2単位）、食品栄養化学特論 講義（2単位）、計算生命科学特論 講義（2単位）</p>

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義として「人類遺伝学」を基に、医療の全診療科に関わる疾患を病因、病態、診断、治療、遺伝学的検査、遺伝カウンセリング、心理サポート、社会資源の活用について学び、遺伝カウンセラーの基盤を形成する。 ・腫瘍に関しては臨床腫瘍学Ⅰ（共通特論Ⅰ）、臨床腫瘍学Ⅱ（共通特論Ⅱ）を基に、がんの遺伝学総論と、遺伝性乳がん・卵巣がん症候群（HBOC）、リンチ症候群（遺伝性大腸がん）、家族性腺腫性ポリポーシスなど家族性腫瘍症候群や薬理遺伝学について学ぶ。 ・アクティブ・ラーニングを重視し、クライアントと医療者の立場を体験するロールプレイを実施することで、遺伝カウンセリングの重要性を理解する。 						
<p>指導体制</p>	<p><職位> 学内専任教員14名（教授6名、准教授6名、講師2名）、医学部兼任2名 客員教授5名、非常勤講師6名</p> <p><医療資格> 医師12名、薬剤師3名</p> <p><遺伝専門資格> 臨床遺伝専門医7名、認定遺伝カウンセラー2名</p>						
<p>教育プログラム・ コース修了者の キャリアパス構想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課程修了を基に認定遺伝カウンセラー制度委員会が行う認定遺伝カウンセラー認定試験の受験資格を得る。 ・認定試験の合格により認定遺伝カウンセラー資格を取得する。（更新制度あり） ・医療施設の遺伝子診療部等で遺伝医療の専門職である認定遺伝カウンセラーとして遺伝カウンセリング業務に従事する。 ・がん領域ではがん専門医療施設あるいはがん診療連携拠点病院等でのがんの遺伝カウンセリングに従事する。 ・近畿大学の遺伝カウンセラー卒後研修センターで研修を積む。 						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成30年4月</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H29年度</p>	<p>H30年度</p>	<p>H31年度</p>	<p>H32年度</p>	<p>H33年度</p>	<p>計</p>
	<p>博士前期課程 大学院生</p>	<p>0</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>20</p>
	<p>計</p>	<p>0</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>20</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻
教育プログラム・コース名	遺伝カウンセリングに強い多職種がん専門医療人養成コース（インテンシブ）
対象者	大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の医療機関に在籍するがん診療に携わる医療従事者（医師、歯科医師、保健師、助産師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、社会福祉士等）と認定遺伝カウンセラー・臨床心理士、さらにそれを目指す学生を対象とする。
修業年限（期間）	10月（2日/回）
養成すべき人材像	がん患者および家族を対象に次の項目ができる人材養成を行う。 1. 分子遺伝学を含む遺伝学およびがんゲノム学の専門的知識に基づいた情報提供ができる。 2. 臨床背景や家族歴から家族性腫瘍例を拾い上げができる。 3. ゲノム情報から家族性腫瘍の可能性を予測できる。 4. 遺伝学的アセスメントを含む遺伝カウンセリングの提供を行うか、適切な診療部門に紹介できる。 5. 臨床およびゲノム情報から適切な治療選択が説明できる。 6. 患者・家族自身の自己決定のサポートができる。 7. 疾患ごとに適切なサーベイランスの提示ができる。 8. 適切な遺伝カウンセリングができる。
修了要件・履修方法	〈修了要件〉 ・コースの全講義・演習に4/5以上出席し、指定されたテーマについて課題およびレポートを提出すること。 〈履修方法〉講義、演習により授業を行う。 ロールプレイ演習後、演習内容をまとめたレポートを基に全体討論を行い、課題を抽出し、履修者全員で共有する。 ・本教育プログラム・コースで定める科目について、合計8時間以上を履修し、試験に合格すること。等
履修科目等	〈履修内容〉 1. 臨床遺伝学総論（講義） 2. 分子遺伝学およびがんゲノム学（講義） 3. 遺伝子バリエーションの記載法とin silico解析（講義・演習） 4. 家族情報の登録・家系図作成（講義・演習） 5. 家族性腫瘍総論（講義） 6. 遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）の基礎と臨床（講義） 7. リンチ症候群（遺伝性大腸がん）の基礎と臨床（講義） 8. 家族性腺腫性ポリポーシス（FAP）の基礎と臨床（講義） 9. 多発性内分泌腫瘍症1型/2型の基礎と臨床（講義） 10. リ・フラウメニ症候群の基礎と臨床 11. 遺伝学的リスク評価（講義・演習） 12. 臨床遺伝におけるコミュニケーションスキル（講義） 13. 家族性腫瘍の遺伝カウンセリング 14. ロールプレイ演習（演習） 15. 全体討論（演習） 〈方法〉2日間を連続して行う集中講義形式で実施する（10時間）。

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	講義として「腫瘍学」を縦糸に「遺伝学」を横糸に、がんの遺伝学総論を述べ、各症候群については遺伝性乳がん・卵巣がん症候群 (HBOC)、リンチ症候群 (遺伝性大腸がん)、家族性腺腫性ポリポーシス、多発性内分泌腫瘍症 1 型/2 型、リ・フラウメニ症候群 (LFS) などを取り上げる。特にアクティブ・ラーニングを重視し、クライアントと医療者の立場を体験するロールプレイを実施することで、遺伝カウンセリングの重要性を理解する。						
指導体制	次の遺伝医療専門職が講師・ファシリテーターを務める。 1. 近畿大学大学院遺伝カウンセラー養成課程指導者 臨床遺伝専門医 7 名 認定遺伝カウンセラー 2 名 2. 近畿大学大学院遺伝カウンセラー養成課程修了者 (認定遺伝カウンセラー)						
教育プログラム・ コース修了者の キャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・がん専門医療施設あるいはがん診療連携拠点病院等ががん診療に従事する中で、遺伝学的な視野から当事者支援を行うことができる。 ・オレシジョン メディシンの一環としてのがん診療において高いレベルでの方針・治療選択に関わることができる。 ・家族性 (遺伝性) 腫瘍診療に専門的知識を備えて臨むことができる。 						
受入開始時期	平成 29 年 10 月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	がん専門 医療人	40	40	40	40	40	200
	計	40	40	40	40	40	200

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪市立大学大学院医学研究科、大阪市立総合医療センター						
教育プログラム・コース名	小児がんに対応できる医療人材の養成コース						
対象者	医学研究科大学院生						
修業年限（期間）	3（早期修了）～4年						
養成すべき人材像	小児がん（白血病等血液悪性腫瘍、脳腫瘍、その他の小児固形腫瘍）の治療およびその後の晩期合併症の管理にも対応できる小児血液・がん専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	必須および選択科目で30単位以上を履修し、小児血液・がん専門医を取得する。						
履修科目等	<必須科目> 共通特論Ⅰ（2単位）、共通特論Ⅱ（2単位）、臨床腫瘍学特論（1単位）、小児血液・がん特論（2単位）、造血幹細胞移植学特論（1単位）、臨床腫瘍学実習Ⅰ（1単位）、小児血液・がん実習Ⅰ（4単位）、小児血液・がん実習Ⅱ（2単位）、がん緩和医療演習（2単位）、がん臨床研究計画演習（2単位）、がん臨床研究計画実習Ⅰ（2単位）、発表表現演習（2単位）、研究指導（8単位） <選択科目> 造血幹細胞移植学実習（2単位）、がん臨床研究計画実習Ⅱ（2単位）、SPを用いた職種横断的臨床課題演習（1単位）、職種横断的ケーススタディ演習（1単位）、臨床腫瘍学実習Ⅱ（4単位）他4科目						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	小児がんは頻度が少なく、白血病などの血液悪性腫瘍のほか脳腫瘍、神経芽腫などの固形腫瘍を含む。罹患年齢も新生児期から若年成人期（AYA世代）まで幅広く発生しそれぞれの年代別に治療法を考える必要がある。また、小児は発達成長途上にあり、この時期に受けた化学療法や放射線治療、手術などの治療が生殖機能や内分泌機能に及ぼす影響や二次がんなどの晩期合併症は無視できない。本コースでは様々な小児がんの患者が、新生児からAYA世代まで何処で加療を受けても同じ治療、管理ができる小児がん専門医の養成を目指すため、小児血液・がん専門医が教育する。						
指導体制	小児血液・がん専門医が指導						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	小児血液・がん専門医を取得し、小児がん領域における治療が的確に行え、また、治療終了後の晩期合併症の管理ができる医師として活躍が期待できる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学研究科大学院生	0	1	0	1	0	2
	計	0	1	0	1	0	2

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪市立大学大学院医学研究科、大阪市立総合医療センター						
教育プログラム・コース名	多様なニーズに対応する血液専門医養成コース						
対象者	医学研究科大学院生						
修業年限（期間）	3（早期修了）～4年						
養成すべき人材像	希少血液疾患の治療およびAYA世代から高齢患者まで個々の患者のライフステージに応じた治療およびその後の長期管理にも対応できる血液専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	必須および選択科目で30単位以上を履修し、血液専門医を取得する。						
履修科目等	<p><必須科目> 共通特論Ⅰ（2単位）、共通特論Ⅱ（2単位）、臨床腫瘍学特論（1単位）、血液腫瘍学特論（2単位）、造血幹細胞移植学特論（1単位）、臨床腫瘍学実習Ⅰ（1単位）、血液腫瘍学実習Ⅰ（4単位）、血液腫瘍学実習Ⅱ（2単位）、がん緩和医療演習（2単位）、がん臨床研究計画演習（2単位）、がん臨床研究計画実習Ⅰ（2単位）、発表表現演習（2単位）、研究指導（8単位）</p> <p><選択科目> 造血幹細胞移植学実習（2単位）、がん臨床研究計画実習Ⅱ（2単位）、SPを用いた職種横断的臨床課題演習（1単位）、職種横断的ケーススタディ演習（1単位）、臨床腫瘍学実習Ⅱ（4単位）他4科目</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	血液腫瘍は頻度が少なく、多種多様な疾患を経験することが困難である。また、AYA世代の患者は、小児科と成人血液内科で加療される場合があり、それぞれで治療強度が異なり、その後の生命予後に影響している。また、AYA世代は成長途中であり、生殖機能に及ぼす影響や晩期合併症、通勤や通学に及ぼす影響、思春期という多感な時期に病気に罹患することによるさまざまな精神的ストレス、将来への不安などさまざまな問題を抱えている。また、高齢者では、緩和医療などQOLを重要視した治療が求められる場合も多い。本コースでは様々な血液腫瘍の患者が、AYA世代や高齢者も含めたすべての世代にわたって何処で加療を受けても同じ治療、管理ができる血液内科医の養成を目指すため、小児科、成人血液内科が協働して教育する。						
指導体制	成人血液内科医、小児血液内科医が協力して指導						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	血液専門医を取得し、成人血液内科領域において、高齢者からAYA世代患者まで治療が的確に行え、また、小児血液患者が成人した後のフォローアップを引きつげる医師として活躍が期待できる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学研究科 大学院生	0	1	0	1	0	2
	計	0	1	0	1	0	2

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪市立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	同種造血幹細胞移植指導医養成コース						
対象者	医学研究科大学院生						
修業年限（期間）	3（早期修了）～4年						
養成すべき人材像	同種造血幹細胞移植チームの立ち上げができる人材。						
修了要件・履修方法	必須および選択科目で30単位以上を履修し、日本造血細胞移植学会造血幹細胞移植認定医を取得する。						
履修科目等	<必須科目> 共通特論Ⅰ（2単位）、共通特論Ⅱ（2単位）、臨床腫瘍学特論（1単位）、血液腫瘍学特論（2単位）、造血幹細胞移植学特論（1単位）、血液腫瘍学実習Ⅰ（4単位）、血液腫瘍学実習Ⅱ（2単位）、造血幹細胞移植学実習（2単位）、がん臨床研究計画演習（2単位）、がん臨床研究計画実習Ⅰ（2単位）、発表表現演習（2単位）、研究指導（8単位） <選択科目> 造血幹細胞移植学実習（2単位）、がん臨床研究計画実習Ⅱ（2単位）、がん緩和医療演習（2単位）、SPを用いた職種横断的臨床課題演習（1単位）、職種横断的ケーススタディ演習（1単位）、臨床腫瘍学実習Ⅰ（1単位）、臨床腫瘍学実習Ⅱ（4単位）他4科目						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	同種造血幹細胞移植は経験を積んだ限られた医療機関でしか実施できず、全国でも年間3500件程度とニーズに比し、医療機関、スタッフ共に不足している。同種造血幹細胞移植は様々な職種におけるチーム医療が不可欠であり、また、健康なドナーからの採取を行うため、細心の注意が必要となる。移植の経験がない施設において、患者の治療とドナーの安全を担うチームを結成できる人材を育成することで、人材の乏しい同種造血幹細胞移植医療の充実と均てん化を図る。						
指導体制	造血幹細胞移植認定医、HCTCをはじめとした多職種からなる移植サポートチームが協働して行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	血液医専門医および造血幹細胞移植認定医を取得し、自施設の学会認定を得る。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学研究科大学院生	0	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪市立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	多様なニーズに対応するがん薬物療法専門医養成コース						
対象者	医学研究科大学院生						
修業年限（期間）	3（早期修了）～4年						
養成すべき人材像	造血器腫瘍から主な固形がんにわたるがん薬物療法を行うことができ、その上に自分の専門とするがんの分野を持つ。また、看護師、薬剤師など多職種の専門医療人とチームを組み患者を診断、治療することができる。ゲノム情報を理解し、希少がんにも対応し、ライフステージに応じたがん対策を推進するような専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	修了要件：必須科目21単位、選択科目9単位以上、計30単位以上を履修し、医学博士の学位をとること。修業期間中にがん薬物療法専門医の資格をとることが望ましい。 履修方法：講義、セミナー						
履修科目等	<必須科目> 共通特論Ⅰ（2単位）、共通特論Ⅱ（2単位）、がん緩和医療演習（2単位）、SPを用いた職種横断的臨床課題演習（1単位）、職種横断的ケーススタディ演習（1単位）、血液腫瘍学実習（6単位）、がん臨床研究計画演習（2単位）、臨床腫瘍学実習Ⅰ（4単位）、臨床腫瘍学特論（1単位） <選択科目> 放射線腫瘍学実習（4単位）、臨床外科学実習（4単位）、臨床腫瘍学実習Ⅱ（6単位）他4科目						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	臓器横断的ながん薬物療法の演習・実習に加え、多職種医療専門人とチームで患者の診療ができるような病棟及び外来における演習及び実習を一層重視した教育内容にする。多様なニーズに対応でき、さらに世界レベルの抗がん剤の臨床試験ができるような演習を行う。						
指導体制	がん薬物療法専門医、がん治療認定医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師からなる多職種が協働して行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん薬物療法専門医、がん治療認定医を取得し、大学病院、がんセンター、地域中核拠点病院で活躍する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学研究科 大学院生	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪市立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	放射線腫瘍専門医養成コース						
対象者	医学研究科大学院生						
修業年限（期間）	3（早期修了）～4年						
養成すべき人材像	日々進化する腫瘍学の中で、がん診療における放射線療法の位置づけを的確に捉え、個々の置かれた環境において最適な放射線治療を提供できる人材。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位、選択科目6単位以上、計30単位以上を履修し、博士論文審査および最終試験に合格することを修了要件とする。 履修方法：講義、セミナー、学会主催のセミナーや研究会等。						
履修科目等	<必修科目>共通特論Ⅱ（2単位）、放射線腫瘍学総論（2単位）、放射線腫瘍学実習（8単位）、放射線生物学（2単位）、放射線治療計画法演習（2単位）、放射線診断学実習（2単位）、腫瘍画像診断学実習（2単位）、放射線治療物理学（2単位）、高精度放射線治療演習（2単位） <選択科目>共通特論Ⅰ（2単位）、高精度放射線治療特論（2単位）、連携病院放射線腫瘍学実習（8単位）、臨床腫瘍学実習Ⅰ（8単位）、腫瘍病理学実習（4単位）、がん緩和医療実習（2単位）、腫瘍外科学（2単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	今後高精度治療の適応疾患が広がる事が予想されるのみでなく、新たながん薬物療法の開発とともに、放射線療法においても放射線生物学に基づいた基礎的知識が必要となる。これらの修得とともに、より緊密な臨床腫瘍学、外科学との連携が必要となる。このようながん診療における新たな潮流に適応でき、臨床現場で活躍できる人材の育成を目指す。						
指導体制	放射線腫瘍専門医と放射線腫瘍診断医が共同して行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	放射線治療専門医を取得し、自施設の学会認定を得る。また関連病院における放射線治療の質の向上と診療の充実をはかる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学研究科 大学院生	0	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪市立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	ゲノム医療に対応する革新的腫瘍外科専門医養成コース						
対象者	医学研究科大学院生						
修業年限（期間）	3（早期修了）～4年						
養成すべき人材像	高い臨床手技力と研究能力を併せ持つ外科医を養成する。先端の外科技術の修練や、希少がん及び難治癌の病態解明と分子標的治療開発を目指す研究を行い、学位取得ならびに、高い外科技術と先端ゲノム医療の基礎知識を有し、かつライフステージに応じた対応の出来るがん専門医師を養成する。						
修了要件・履修方法	修了要件：必須および選択科目で30単位以上を履修する。 履修方法：講義、セミナー、外科的実習。						
履修科目等	<必須科目> 共通特論Ⅰ（2単位）、共通特論Ⅱ（2単位）腫瘍外科学実習Ⅰ（4単位）、腫瘍外科学実習Ⅱ（4単位） <選択科目> 臨床腫瘍学特論（1単位）、臨床腫瘍学演習Ⅱ（2単位）、放射線腫瘍学演習（2単位）がん緩和医療演習（2単位）、SPを用いた職種横断的臨床課題演習（1単位）、職種横断的ケーススタディ演習（1単位）、臨床腫瘍学演習Ⅰ（2単位）、その他						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	外科治療を行う上で、ゲノム医療も視野においた癌の病態研究による基礎知識修得および臨床の修練を行う。						
指導体制	外科指導医、消化器外科指導医、乳癌専門医による臨床手技指導。 大阪市立大学難治癌TRセンター教員によるゲノム医療の指導。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	外科専門医およびサブスペシャリティ領域の専門医の取得。臨床手技力およびリサーチマインドを兼ね備えた次世代医療に対応する外科医として活躍が期待される。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学研究科 大学院生	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪市立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	多様なニーズに対応する、がん専門医療人養成インテンシブコース（インテンシブ）						
対象者	がん専門医療人（医師・看護師・薬剤師・放射線技師など）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん専門医療人（医師・看護師・薬剤師・放射線技師など）として地域の病院において、指導できる人材を育成する。ライフステージに応じたがん対策を実施する人材を養成する。講義を通じて、ゲノム情報、希少がんも学習する。						
修了要件・履修方法	修了要件：共通特論を60パーセント以上出席する。 履修方法：講義、演習						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通特論 I～II ・ 実習および臓器・職種横断的カンファレンスに参加（希望者のみ） 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん診療に携わる医療人を対象に、多職種を含む共通の講義に参加し、がん診療に関するチーム医療のあり方や最新の知識を身につけることで、地域のがん医療の均てん化を目指す。また希望者には大学病院において演習および実習を行い、キャンサーボードにも参加する。						
指導体制	がん薬物療法専門医、がん治療認定医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師からなる多職種が協働して行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	地域のがん診療を行っている病院、施設での活躍。大学院への進学。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	がん専門医療人	0	5	5	5	5	20
	計	0	5	5	5	5	20

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪市立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	多様なニーズに対応する、地域中核病院専門医療職養成インテンシブコース（インテンシブ）						
対象者	がん専門医療人（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、栄養士など）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん専門医療人（医師・看護師・薬剤師・放射線技師、栄養士など）として地域の病院において、指導できる人材を育成する。ライフステージに応じたがん対策を実施する人材を養成する。講義を通じて、ゲノム情報、希少がんも学習する。						
修了要件・履修方法	修了要件は共通特論 I～IIの60%以上出席し、年3回の演習および実習に参加する。また履修方法については講義・演習・実習とする。						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・共通特論 I～II ・演習および実習また臓器・職種横断的カンファレンス 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	大学病院の診療圏で1年に2か所程度の地域の中核病院に依頼し、1年間にわたる学習プログラムを実施する。がん専門医療人をそれぞれの病院から1名程度選出し合同あるいは職種毎に年に3回、1週間程度の演習と実習を大学病院で行う。実習は大学病院の化学療法センターを中心にがん化学療法、がん看護、抗癌剤の調整、栄養指導などについて行い、年ごとに対象となる中核病院を変え、数年をめぐり大学病院の診療圏にある地域中核病院と大学病院との連携を完成させる。						
指導体制	がん薬物療法専門医、がん治療認定医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師からなる多職種が協働して行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	引き続き、地域のがん診療を行っている病院、施設での活躍。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	がん専門医療人	0	3	3	3	3	12
	計	0	3	3	3	3	12

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成プログラム（腫瘍・血液内科学）
対象者	医学研究科医科学専攻大学院生（博士課程）
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	臓器横断的にがん薬物療法やがん患者管理を修得し、腫瘍の遺伝子異常に対応した診療、遺伝性腫瘍の診療や地域包括ケアシステムを見据えた高齢者・AYA世代のがん診療といったスペシャルポピュレーションに適切に対応できる高い倫理観と高度な専門知識・技能を身につけ、地域全体のがん薬物療法の推進と遺伝カウンセリング体制の構築に貢献し、クリニカルクエストを紐とくりサーチマインドを持った国際的に活躍できるがん薬物療法専門医を養成する。
修了要件・履修方法	専門科目24単位、共通科目6単位、合計30単位を履修し、博士論文を提出し、学位審査に合格すること。
履修科目等	<p>【専門科目】24単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専攻する分野（腫瘍・血液内科学）の授業科目 ・腫瘍・血液内科学特別研究Ⅰ（6単位） ・腫瘍・血液内科学特別研究Ⅱ（4単位） ・腫瘍・血液内科学演習（3単位） ・腫瘍・血液内科学臨床実習（2単位） <p>○他の分野の授業科目（特別研究Ⅱ及び臨床実習を除く）から9単位</p> <p>【共通科目】6単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共通特論Ⅰ（必修）（2単位） ○共通特論Ⅱ（必修）（2単位） ○がんプロフェッショナル養成特論（必修）（1単位） ○医学研究先端講義（1単位） ○その他大学院特別講義から1単位
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	造血器悪性腫瘍を含むすべてのがんの診療に対応可能な腫瘍・血液内科を主な基盤として、他診療科や他部門と協力しがん薬物療法の理論と実践を体系的に教育する。さらに、遺伝子診療部と協働して遺伝性腫瘍の診療を体系的に教育する。神戸市内外の総合病院での実習により地域病院でのがん医療の導入、遺伝性腫瘍診療のコーディネーター、地域連携体制の構築への支援・推進の方法を修得する。
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習において、多職種連携の現場を体験し、チームの一員として活動させる。 ・学内の実習担当教員と学外の臨床教授等、基礎医学と臨床医学の教員が協力し、基礎研究と臨床情報を包括した指導を行う。遺伝性腫瘍に対応できる医師の育成も行う。 ・海外演者を招聘し、講演会を開催する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	・乳癌、頭頸部癌、食道癌、胃癌、膵癌、大腸癌、肺癌、血液腫瘍など臓器の枠にとらわれずに、全てのがん患者を対象に患者の個人レベルで最適な治療方法を分析・選択し幅広いがんの薬物療法ができるがん薬物療法専門医
受入開始時期	平成29年10月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	博士課程	2	3	3	3	3	14
	計	2	3	3	3	3	14

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成プログラム（放射線腫瘍学）
対象者	医学研究科医科学専攻大学院生（博士課程）
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	放射線療法に関連する医師、医学物理士、診療放射線技師等の幅広い医療職を対象とし、骨盤部腫瘍や小児腫瘍、切除不能局所進行膀胱といった稀少がんを症例とし正確な診断や集学的医療の実践を行える能力を備え、ライフステージに応じた放射線腫瘍学に精通する人材を養成する。
修了要件・履修方法	専門科目24単位、共通科目6単位、合計30単位を履修し、博士論文を提出し、学位審査に合格すること。
履修科目等	<p>【専門科目】24単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専攻する分野（放射線腫瘍学）の授業科目 ・放射線腫瘍学特別研究Ⅰ（6単位） ・放射線腫瘍学特別研究Ⅱ（4単位） ・放射線腫瘍学演習（3単位） ・放射線腫瘍学臨床実習（2単位） <p>○他の分野の授業科目（特別研究Ⅱ及び臨床実習を除く）から9単位</p> <p>【共通科目】6単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共通特論Ⅰ（必修）（2単位） ○共通特論Ⅱ（必修）（2単位） ○がんプロフェッショナル養成特論（必修）（1単位） ○医学研究先端講義（1単位） ○その他大学院特別講義から1単位
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	兵庫県立粒子線医療センター（陽子線と炭素イオン線を使用できる世界初の施設）や神戸陽子線センター（兵庫県立こども病院に隣接し、小児がんに重点を置いた陽子線治療施設）と連携し、高精度放射線治療、組織内治療、粒子線治療等の多種の臨床実習を実施。
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍・血液内科や小児科，頭頸部外科・婦人科などとも協力し、複数科へのローテーションを行い、あらゆるケースに対象となる患者にとっては何が一番よいのかをチームで考える体制をとる。 ・遺伝子発現パターンや遺伝子変異も読影でき、より臓器横断的な総合がん治療医の素養を持った放射線治療医を育成する。 ・学内の実習担当教員と学外の臨床教授等、基礎医学と臨床医学の教員が、共通のFDに取り組むなど、FD（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	遺伝子発現パターンや遺伝子変異も読影でき、がん治療に関連する多職種との相互協調、相互理解を図る放射線治療医
受入開始時期	平成29年10月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	博士課程	2	3	3	3	3	14
	計	2	3	3	3	3	14

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成プログラム（先端緩和医療学）
対象者	医学研究科医科学専攻大学院生（博士課程）
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	緩和医療領域の最新の治療とケアに精通し、小児、AYA 世代、壮年、高齢者などすべてのライフステージにおいて個別化された医療・ニーズに対応でき、地域住民の保健と福祉に貢献する人材を養成する。
修了要件・履修方法	専門科目 24 単位、共通科目 6 単位、合計 30 単位を履修し、博士論文を提出し、学位審査に合格すること。
履修科目等	<p>【専門科目】 24 単位</p> <p>○専攻する分野（先端緩和医療学）の授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端緩和医療学特別研究Ⅰ（6 単位） ・先端緩和医療学特別研究Ⅱ（4 単位） ・先端緩和医療学演習（3 単位） ・先端緩和医療学臨床実習（2 単位） <p>○他の分野の授業科目（特別研究Ⅱ及び臨床実習を除く）から 9 単位</p> <p>【共通科目】 6 単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共通特論Ⅰ（必修）（2 単位） ○共通特論Ⅱ（必修）（2 単位） ○がんプロフェッショナル養成特論（必修）（1 単位） ○医学研究先端講義（1 単位） ○その他大学院特別講義から 1 単位
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	緩和ケアチーム、緩和ケア病棟や在宅緩和ケアでの臨床実践を通じて、専門的緩和医療を学習する。また、小児緩和ケア、高齢者の緩和ケア、地域緩和ケアネットワークを含めた、多職種でのチーム医療の実践が可能である。これらを通じて心理社会的な問題への対応を含めた相談支援体制、緩和ケアの提供体制等を含めた、がん患者と家族の諸問題を早期にかつ適切に評価し、地域の医療者と連携して対応する能力を身につける。
指導体制	大学院の 4 年間で病院でのコンサルテーション、ホスピス・緩和ケア病棟での入院診療、専門的な訪問診療を行う能力、並びにすべてのライフステージの患者を対象にチーム医療を行う能力を医学部附属病院、協力病院・診療所における症例の実習と職種横断的演習を通して修得し日本緩和医療学会緩和医療専門医を取得するとともに、緩和医療に関する臨床研究を行い博士号を取得できるよう大学院学生の指導を行う。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	緩和医療の専門的知識・技術に基づく臨床実践、コンサルテーション活動、教育指導や臨床研究を通じて、地域における緩和医療の啓発、普及や医療・福祉の発展に寄与することが期待される。
受入開始時期	平成 29 年 10 月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	博士課程	2	3	3	3	3	14
	計	2	3	3	3	3	14

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成プログラム（薬剤学）
対象者	医学研究科医科学専攻大学院生（博士課程）
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	がん治療の専門職でありながら、基礎および臨床研究遂行能力を有する研究者。特に、新規抗がん薬や放射線治療法・医療機器の開発、がんの臨床試験を企画、遂行できる研究者、地域と連携した緩和医療システムの確立に携わる研究者、薬理ゲノム学および薬物動態学を統合し個別投与設計を開発する研究者。
修了要件・履修方法	専門科目24単位、共通科目6単位、合計30単位を履修し、博士論文を提出し、学位審査に合格すること。
履修科目等	<p>【専門科目】24単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専攻する分野（薬剤学）の授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤学特別研究Ⅰ（6単位） ・薬剤学特別研究Ⅱ（4単位） ・薬剤学演習（3単位） ・薬剤学臨床実習（2単位） ○他の分野の授業科目（特別研究Ⅱ及び臨床実習を除く）から9単位 <p>【共通科目】6単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共通特論Ⅰ（必修）（2単位） ○共通特論Ⅱ（必修）（2単位） ○がんプロフェッショナル養成特論（必修）（1単位） ○医学研究先端講義（1単位） ○その他大学院特別講義から1単位
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	初期研修と博士課程を両立させがんの基礎研究を施行するPharmacist Scientistを育成する。製薬企業において実際に治験業務の実習を行い臨床試験や治験に精通させる。訪問看護など地域で緩和医療を行う医療機関で実習を行う。薬剤学分野と腫瘍・血液内科学分野が協力し統合型研究活動を行い、新規医薬品適正使用に寄与する薬理ゲノム学・薬物動態学研究の手法を修得する。医療機器企業や理工系出身者との連携により体系的医学教育を実践し普及型の産学連携を確立する。
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・製薬企業において実際に治験業務の実習を行い臨床試験や治験に精通させ薬理ゲノム学および薬物動態学知見に基づいた合理的がん薬物療法の開発を行う。 ・学内の実習担当教員と学外の臨床教授等、基礎医学と臨床医学の教員が、共通のFD（ファカルティ・ディベロップメント）に取り組み、共通の認識を持って、連携して指導を行う。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・日本ゲノム薬理学会 認定薬剤師 ・日本医療薬学会 専門薬剤師・指導薬剤師 ・教育研究機関におけるがん薬物療法を専門とする研究者
受入開始時期	平成30年4月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	博士課程	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成プログラム（小児科学）						
対象者	医学研究科医科学専攻大学院生（博士課程）						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	乳児から思春期・若年成人に至る血液腫瘍性疾患の診療を行い、遺伝子多型によるオーダーメイド治療法を開発する研究者。						
修了要件・履修方法	専門科目24単位、共通科目6単位、合計30単位を履修し、博士論文を提出し、学位審査に合格すること。						
履修科目等	<p>【専門科目】26単位</p> <p>○専攻する2つの分野の授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児科学特別研究Ⅰ（6単位） ・小児科学学特別研究Ⅱ（4単位） ・小児科学演習（3単位） ・腫瘍・血液内科学特別研究Ⅰ（6単位） ・腫瘍・血液内科学特別研究Ⅱ（4単位） ・腫瘍・血液内科学演習（3単位） <p>【共通科目】6単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共通基礎科目（2単位） ○医学研究先端講義（1単位） ○がんプロフェッショナル養成特論（必修）（1単位） ○その他大学院特別講義から2単位 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	兵庫県立こども病院などの小児科専門医研修指定施設における症例の実習と職種横断的演習を行う。小児がんおよび造血細胞移植患者の長期フォローアップや血液疾患、悪性腫瘍の遺伝子的発症機序の解明を行う。						
指導体制	小児がんは、手術治療、薬物療法（抗がん剤治療）、放射線治療、造血幹細胞移植、支持療法を組み合わせる。従って、安全で有効な化学療法を外来で実施するために外来化学療法室、適切ながん化学療法を実施するためのレジメン審査を行うがん薬物療法審査委員会、一人のがん患者さんの治療方針を診療科を越えて決定するTumor Boardを通じて多職種による実習にコミットし、研究指導を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	全ての小児がん患者に対して世界標準かつ優しく温かい医療を提供するとともに、臨床研究の推進、個々の患者に応じた支持療法及び長期フォローアップ体制の確立などを通じて、わが国の小児がん診療をリードする人材。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	博士課程	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がん薬物療法インテンシブコース（インテンシブ）						
対象者	近畿圏でがん診療に携わっている医師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	臓器横断的にがん薬物療法やがん患者管理を修得し、腫瘍の遺伝子異常に対応した診療、遺伝性腫瘍の診療や地域包括ケアシステムを見据えた高齢者・AYA世代のがん診療といったスペシャルポピュレーションに適切に対応でき、施設全体のがん薬物療法と遺伝性腫瘍診療の推進と安全管理にコーディネーターとして主導的役割を果たせるがん薬物療法専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	講義90時間、実習160時間（4週） （ただし、実習については最大1年間のうちに、96時間以上の出席で修了認定）						
履修科目等	共通特論Ⅰ（2単位） 共通特論Ⅱ（2単位） 実習 160時間（希望者のみ）						
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	通常の博士課程、修士課程とは別に近畿圏でがん診療に携わっている医師を対象に、がん診療に必要な臨床腫瘍学、放射線腫瘍学、臨床遺伝学の体系的な教育の機会を提供し、がん診療に関する最新の知識と技能の地域への均てん化とレベルアップをめざす。博士課程と同じ共通特論を履修し、大学病院あるいは連携病院において、がん薬物療法の実習を4週間実施する。修了者には、がん専門医師研修（インテンシブ）コース修了証を授与する。						
指導体制	・臨床実習において、多職種連携の現場を体験し、チームの一員として活動させる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	地域（主に兵庫県）におけるがん薬物療法の普及、均てん化、質的向上が第一に期待される。がん治療に関連する多職種との相互協調、相互理解を促進する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	2	3	3	3	3	14
	計	2	3	3	3	3	14

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がん放射線療法インテンシブコース（インテンシブ）						
対象者	近畿圏でがん診療に携わっている医師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	放射線療法に関連する医師、医学物理士、診療放射線技師等の幅広い医療職を対象とし、骨盤部腫瘍や小児腫瘍、切除不能局所進行膵癌といった稀少がんを症例とし放射線腫瘍学に精通する人材を養成する。						
修了要件・履修方法	講義90時間、実習160時間（4週） （ただし、実習については最大1年間のうちに、96時間以上の出席で修了認定）						
履修科目等	共通特論Ⅰ 2単位 共通特論Ⅱ 2単位 実習 160時間（希望者のみ）						
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	近畿圏でがん診療に携わっている医師を対象に、がん診療に必要な臨床腫瘍学、放射線腫瘍学の最新の知識と技能の修得を目的とします。 共通特論を履修し、大学病院あるいは連携病院において、放射線腫瘍学の実習を4週間実施します。修了者には、がん専門医師研修（インテンシブ）コース修了証を授与します。						
指導体制	小児オールジャパン体制での研究の連携が可能となる拠点（例えば兵庫県立粒子線医療センターや神戸陽子線センター）との教育連携。がん治療に関連する多職種との相互協調、相互理解を促進する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	地域（主に兵庫県）における放射線療法の普及、均てん化、質的向上が第一に期待される。小児オールジャパン体制での研究の連携が可能となる拠点の選定及び教育連携。がん治療に関連する多職種との相互協調、相互理解を促進する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がん緩和ケア・インテンシブコース（インテンシブ）						
対象者	近畿圏でがん診療に携わっている医師および医療福祉従事者						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	緩和ケア領域の最新の治療とケアに精通し、地域の様々なライフステージの患者とその家族に対して適切なケアを提供できる人材を養成する。生命の危機に直面するがん患者と家族の諸問題を早期にかつ適切に評価し、地域の医療者と連携して対応する能力を身につける。						
修了要件・履修方法	講義10時間以上、実習20時間以上（1週） （ただし、実習については最大2年間のうちに、20時間以上の出席で修了認定します。）						
履修科目等	講義：コースの開始時に行う集中講義（4時間）への参加は必須とする。その他、7大学が指定する1回1時間以上、計30回開催される緩和ケアに関する研修会に3回以上、合計の時間が10時間以上参加する。 実習：20時間以上40時間以下（希望者のみ）：7大学の大学病院及びその関連教育実習施設の緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅緩和ケアを提供する診療所、訪問看護ステーション等で実習を行う						
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	小児からAYA世代、高齢者まで幅広い患者を対象とし、個別性を重視した専門的緩和ケアに関する講義を、7大学各々がその特色を活かして、協力し合って年間カリキュラムを作成し提供する。 緩和ケアチーム、緩和ケア病棟や在宅緩和ケアでの臨床実践を通じて、専門的緩和医療を学習する。また、地域緩和ケアネットワークを含めた、多職種でのチーム医療の実践が可能であることが特色である。修了者には、がん緩和医療研修（インテンシブ）コース修了証を授与する。						
指導体制	神戸大学緩和支援治療科を中心に、近畿大学、大阪市立大学、兵庫医科大学、関西医科大学、大阪府立大学、神戸市立看護大学の緩和ケアチーム、緩和医療専門医、がん専門看護師、がん緩和ケアに関わる認定看護師が多職種で教育にあたる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	全てのライフステージにおいて、患者の個別性に配慮して専門的知識・技術に基づく緩和ケアの臨床実践、コンサルテーション活動などを行うことを通して、地域におけるがん患者のQOL向上に寄与することが期待される。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	2	3	3	3	3	14
	看護師	4	5	5	5	5	24
	その他	2	3	3	3	3	14
	計	8	11	11	11	11	52

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がんリハビリテーションインテンシブコース（インテンシブ）						
対象者	がんリハビリテーションに興味のあるリハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	多職種チームによるがん治療において、高齢がん患者をはじめ多様ながん患者にリハビリテーションを実施する際に必要な知識・技能を習得し、実際の臨床において、がん患者に対するリハビリテーションがそれぞれの職種の立場で実践でき、かつ現場スタッフに対して指導的な役割を担える人材となること目指します。						
修了要件・履修方法	講義 102時間、実習 24時間（3日間）（英文抄読会での発表を含む） 講義：レポートの提出により、臨床腫瘍学およびがんのリハビリテーションの基礎知識の学習が十分であるかを評価する。また、がんリハビリテーションに関する研究計画書を作成し、提出する。 実習：施設見学成果についてのレポートを提出する（症例発表レポートの提出にて読み替え可）。修了者には、修了証を授与。						
履修科目等	共通特論Ⅰ（2単位） 共通特論Ⅱ（2単位） ■がんリハビリテーション講義 6回 開講 [実習] 1. リハビリテーション計画法、評価法、治療法、リスク管理（主に化学療法・造血幹細胞移植、食道癌・頭頸部癌・乳癌の周術期、緩和ケアチーム、摂食・嚥下におけるリハビリテーションの見学実習）。2. 腫瘍・血液内科、食道胃腸外科、耳鼻咽喉科頭頸部外科、乳腺内分泌外科、緩和ケアチームなど関連診療科のカンファレンスにおける治療方針の決定過程、チーム医療の実習。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	リハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）を対象に、多職種チームの中で高齢がん患者をはじめ多様ながん患者にがんリハビリテーションを実践する際に必要な臨床腫瘍学やリハビリテーションの最新の知識・技能を習得することを目指す。						
指導体制	緩和ケア医、がん専門看護師、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー、リハビリテーション専門職等の多職種で構成される緩和ケアチームとの実習を通じて、がんの病態や治療戦略などの決定プロセスを学ぶ。また、神戸大学大学院保健学研究科の協力を得て、リハビリテーション科医及び附属病院理学療法士等による密接した研究指導を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がんによる直接的な影響や手術療法、化学療法、放射線療法等による身体的な障害並びにこれらに伴う運動療法や生活機能の低下に対する予防・改善等を目的とした基本的な知識と技術を習得しチーム医療で指導的立場を担うリハビリテーション専門職。臨床におけるがん患者に対するリハビリテーションの普及とともに、その実践によるがん患者の生活機能と生活の質（QOL）の質の維持向上が得られる。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	リハビリテーション専門職	10	10	10	10	10	50
	計	10	10	10	10	10	50

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がん薬剤師インテンシブコース（インテンシブ）						
対象者	薬剤師免許登録者、又は採用年の3月に薬学部卒業見込、大学院（修士・博士課程）修了見込の者で、採周年内に薬剤師免許登録ができる者。						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	保険薬局および病院に勤務する薬剤師をターゲットとし、大学病院薬剤部との高度専門職連携、いわゆる地域医療連携によるがん薬物療法に対する高度な薬学的管理ニーズに対応出来るスペシャリストを養成する。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・抗がん薬の調剤や、がん関連の病棟における薬剤管理指導業務、外来化学療法における薬剤業務等に関わることで、がん薬物療法に関連した薬剤業務のスキルを学ぶ。 ・がん薬物療法に関連したテーマで関連研究会・学会で研究発表を行う。 						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ○がん薬物療法関連の薬剤業務研修 <ul style="list-style-type: none"> ・調剤、薬品管理、注射剤調剤、院内製剤の調製、抗がん剤ミキシング、医薬品情報、TDM、治験薬管理などがん薬物療法に関連した薬剤業務の研修を行う。 ○がん薬物療法に関連した研究の遂行 ○がんプロフェッショナル養成特論（1単位） ○共通特論Ⅰ（2単位） ○共通特論Ⅱ（2単位） 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	神戸大学医学部附属病院薬剤部における新入局薬剤師と同等の研修内容を含んだ、調剤、薬品管理、注射剤調剤、院内製剤の調製、抗がん剤ミキシング、医薬品情報、TDM、治験薬管理等のがん薬物療法関連の研修を行う。がん薬物療法に関連した研究も行うことから、問題発見・解決能力の醸成も図る。						
指導体制	神戸大学医学部附属病院薬剤部教員や副部長と、がん専門薬剤師が連携して指導にあたる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	がん薬物療法に関する高度な薬学的管理ニーズに対応できる病院や地域保険薬局で活躍する薬剤師。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	薬剤師	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	関西医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	地域がん医療発展型放射線腫瘍学コース						
対象者	原則として初期研修修了者						
修業年限（期間）	4年（ただし、長期履修制度を利用する学生は5年）						
養成すべき人材像	第2期においても、がんの分子生物学・診断・治療にわたる基礎知識・技能を習得し、地域基幹病院においてがんに対する放射線治療を中心とした集学的治療の実践と革新的がん治療を行う放射線治療専門医の養成を目指してきたが、第3期ではより一層、診断・治療に習熟し、患者のライフステージに応じた相談支援までを担えるがん専門医療人を養成する。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として4年以上在学すること ・コースワーク4単位、リサーチワーク26単位以上の計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえ博士論文を提出し、博士論文の審査及び試験に合格すること 						
履修科目等	【コースワーク】 必修コース（共通特論Ⅰ、Ⅱを含む）、選択必修コース 【リサーチワーク】 講義、演習、実験・実習、研究・論文作成指導						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	放射線治療は手術、薬物療法と並ぶがん治療の3本柱であり、全身ほとんどの部位にある多くの種類のがんが治療の対象となる。本コースでは、がんの形に合わせた放射線治療を行う新しい照射方法である強度変調放射線治療を経験し、副作用を軽減した効果的ながん放射線療法の確立を目指すことができる。また進行期子宮頸癌に対する抗癌剤併用放射線治療、抗癌剤併用温熱放射線治療の全国的な多施設共同研究を経験し、特にIIIIB期やIVA期の進行期子宮頸癌に対して良好な治療結果を得ることによって、地域の施設から紹介される多くの進行期婦人科癌症例の治療を習得できる。さらに、最近増加が著しい前立腺癌に対してヨウ素125シード線源永久挿入による密封小線源療法や、進行期・再発癌に対してIVRを組み合わせた新たな治療戦略も経験できる。						
指導体制	【コースワーク】 該当科目担当教員、共通特論は関連7大学の講義担当教員 【リサーチワーク】 内科学第一講座、小児科学講座、外科学講座、脳神経外科学講座、産科学婦人科学講座、放射線科学講座、臨床病理学講座に所属する各大学院教員が担う						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本学附属病院、及び地域の関連病院において、個別化医療、プレジジョンメディシンに対応可能ながん専門医療人として、地域医療の促進及び後進の育成に努める。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	初期研修修了者	1	1	2	2	2	8
	計	1	1	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	関西医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	地域がん医療発展型臨床腫瘍学コース						
対象者	原則として初期研修修了者						
修業年限（期間）	4年（ただし、長期履修制度を利用する学生は5年）						
養成すべき人材像	第2期においても、がんの分子生物学・診断・治療にわたる基礎知識・技能を習得し、地域基幹病院において均てん化がん医療を実践できる薬物療法専門医の養成を目指してきたが、第3期ではより一層、診断・治療に習熟し、患者のライフステージに応じた相談支援までを担えるがん専門医療人を養成する。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として4年以上在学すること ・コースワーク4単位、リサーチワーク26単位以上の計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえ博士論文を提出し、博士論文の審査及び試験に合格すること 						
履修科目等	<p>【コースワーク】 必修コース（共通特論Ⅰ、Ⅱを含む）、選択必修コース</p> <p>【リサーチワーク】 講義、演習、実験・実習、研究・論文作成指導</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	白血病や造血器腫瘍に対して、造血幹細胞移植や分子標的療法、さらには放射免疫療法などを含めた最先端医療を経験できる。常に新しいエビデンスに基づいた治療を行うことにより、地域におけるがん診療を発展させることに貢献できる。また悪性腫瘍の中でもっとも頻度の多い肺癌については、画像検査および気管支鏡検査を習得し、治療としては化学療法を専門として、外来化学療法も積極的に参加・経験することができる。また、遺伝子異常検査に基づいた分子標的薬剤治療、さらには将来のがん医療に発展に寄与すべく単施設の臨床試験はもちろんのこと、地域のみならず全国規模の多施設臨床試験への参加を経験できる。最終的には新薬開発への貢献も可能である。						
指導体制	<p>【コースワーク】 該当科目担当教員、共通特論は関連7大学の講義担当教員</p> <p>【リサーチワーク】 内科学第一講座、小児科学講座、外科学講座、脳神経外科学講座、産科学婦人科学講座、放射線科学講座、臨床病理学講座に所属する各大学院教員が担う</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本学附属病院、及び地域の関連病院において、個別化医療、プレジジョンメディスンに対応可能ながん専門医療人として、地域医療の促進及び後進の育成に努める。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	初期研修修了者	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	関西医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	地域医療密着型先進的がん治療学コース						
対象者	原則として初期研修修了者						
修業年限（期間）	4年（ただし、長期履修制度を利用する学生は5年）						
養成すべき人材像	第2期では、がんの分子生物学・診断・治療にわたる基礎知識・技能を習得し、標準的集学治療の実践と革新的ながん治療の開発研究を行うがん治療専門医の養成を目指してきたが、第3期ではより一層、診断・治療に習熟し、患者のライフステージに応じた相談支援までを担えるがん専門医療人を養成する。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として4年以上在学すること ・コースワーク4単位、リサーチワーク26単位以上の計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえ博士論文を提出し、博士論文の審査及び試験に合格すること 						
履修科目等	<p>【コースワーク】 必修コース（共通特論Ⅰ、Ⅱを含む）、選択必修コース</p> <p>【リサーチワーク】 講義、演習、実験・実習、研究・論文作成指導</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん治療と緩和医療の各センターを併設した施設に配属されることにより、がん患者に最も適切ながん医療を提供すべく対応方法を体験することができる。附属病院では、地域医療連携がスムーズに行われるように地域がん診療ネットワークが設立されており、その中で積極的に活動することによって、がんの病態および標準的治療法、さらにはがんの予防・早期発見等のがん診療の基礎を習得できる。また専門医で構成されるキャンサーボードの定期的カンファレンスに参加し、緩和ケアを含めたより総合的ながん治療学を体験することができ、がんを専門とした病理医の指導のもとにがん遺伝子学や最新の分子標的治療法も習得することができる。						
指導体制	<p>【コースワーク】 該当科目担当教員、共通特論は関連7大学の講義担当教員</p> <p>【リサーチワーク】 内科学第一講座、小児科学講座、外科学講座、脳神経外科学講座、産科学婦人科学講座、放射線科学講座、臨床病理学講座に所属する各大学院教員が担う</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本学附属病院、及び地域の関連病院において、個別化医療、プレジジョンメディスンに対応可能ながん専門医療人として、地域医療の促進及び後進の育成に努める。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	初期研修修了者	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	関西医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	希少がん・小児がん挑戦型臨床腫瘍学コース						
対象者	原則として初期研修修了者						
修業年限（期間）	4年（ただし、長期履修制度を利用する学生は5年）						
養成すべき人材像	第2期においても、膵臓がんをはじめとする難治がんの病態解明を目指す研究と手術手技に優れた医療者の養成を目指してきたが、第3期ではこれに小児がんを加え、有効で安全な治療法の開発や効果が期待できる治療法を組み合わせた集学的治療の開発に取り組む医療者を養成する。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として4年以上在学すること ・コースワーク4単位、リサーチワーク26単位以上の計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえ博士論文を提出し、博士論文の審査及び試験に合格すること 						
履修科目等	<p>【コースワーク】 必修コース（共通特論Ⅰ、Ⅱを含む）、選択必修コース</p> <p>【リサーチワーク】 講義、演習、実験・実習、研究・論文作成指導</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースでは、白血病や悪性リンパ腫、また小児脳腫瘍や神経芽腫・網膜芽腫・ウイルス腫瘍・横紋筋肉腫・奇形腫・肝芽腫などの多くの小児がん・希少がんについて経験できる。治療に関して小児外科をはじめとするそれぞれの専門外科の指導のもとに化学療法・手術・放射線治療・各種造血幹細胞移植など集学的治療を習得しうる。また血液・腫瘍専門医による代表的な各種小児がん治療研究会への参加を通じて最新の治療・研究を経験できる。最終目標としては、本学附属病院、及び地域の関連病院において、個別化医療、プレシジョンメディシンに対応可能ながん専門医療人として、地域医療の促進及び後進の育成に貢献しうる。						
指導体制	<p>【コースワーク】 該当科目担当教員、共通特論は関連7大学の講義担当教員</p> <p>【リサーチワーク】 内科学第一講座、小児科学講座、外科学講座、脳神経外科学講座、産科学婦人科学講座、放射線科学講座、臨床病理学講座に所属する各大学院教員が担う</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本学附属病院、及び地域の関連病院において、個別化医療、プレシジョンメディシンに対応可能ながん専門医療人として、地域医療の促進及び後進の育成に努める。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	初期研修修了者	1	1	2	2	2	8
	計	1	1	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	多様な医療ニーズに対応する医学物理学養成コース						
対象者	医学研究科医科学専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	放射線治療の物理的研究を推進し、グローバルな視野と高い技能を持ったがん研究医療人を育成する。地域社会に広く還元される研究成果の創出を基盤とし、豊かな人間性に基づく倫理観と高度な専門的知識を有し、将来、我が国のがん研究・教育・診療におけるリーダーとなり得る人材を養成する。						
修了要件・履修方法	必須科目38単位、選択科目6単位以上、計44単位以上を履修すること。海外のがん専門医療機関において4週以上の臨床実習を経験すること。論文審査を受け、最終試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目> 放射線腫瘍学総論（2単位）、放射線診断学（2単位）、放射線生物学（2単位）、放射線治療学（4単位）、放射線腫瘍学（4単位）、放射線治療計画（4単位）、高精度放射線治療学（4単位）、共通特論Ⅰ（2単位）、共通特論Ⅱ（2単位）、ほか4科目。</p> <p><選択科目> SPを用いた職業横断的臨床課題演習（1単位）、職種横断的ケーススタディ演習（1単位）ほか8科目。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当大学では共同実験研究施設および医学物理師などのスタッフが充実しており、放射線物理の研究実習に十分な体制が整っている。また国際的視野を持ったがん研究者育成を目的とし、海外研究者との交流、海外のがん専門医療機関と連携し教育を促進する。						
指導体制	大学においては、放射線治療専門医、医学物理師、放射線治療認定技師を指導教官とし、臨床現場での実習、並びに共同研究室での基礎研究をすすめる。また、麻酔科、腫瘍内科との院内ローテーションによりがん診療の幅広い知識・技能を習得させる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	高精度放射線治療分野の臨床における指導的役割、活躍の場を広げる、より専門的役割を目指す。また研究・教育現場における指導者としての役割を目指す。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	放射線治療技師	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	多様な医療ニーズに対応する先進的がん薬物療法養成コース						
対象者	医学系研究科医科学専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	優れた研究を推進し、グローバルな視野と高い技能を持ったがん研究医療人を育成する。国際的にも通用する研究を通じて海外の研究者との交流を深める。高度な専門知識を取得し、将来我が国のがん研究、教育、医療のリーダーを育成する。						
修了要件・履修方法	・必修科目38単位以上、選択科目6単位以上の、計44単位を履修し、論文審査を受け、最終試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍内科学（8単位）、腫瘍診断学（12単位）、腫瘍分子生物学（4単位）、腫瘍薬理遺伝学（4単位）、共通特論Ⅰ（2単位）、共通特論Ⅱ（2単位）、ほか2科目 <選択科目> 腫瘍外科学（2単位）、緩和医療学演習（2単位）、職種横断的ケーススタディ演習（1単位）など						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	国際的な視野をもち、独創的ながん研究を推進できる人材育成を目指して教育を行う。基礎医学、臨床医学それぞれの相互連携を図る。さらに、海外の研究者との交流も視野に入れる。原則として、海外学会での発表を行う。						
指導体制	がんセンターが主体となり、関連診療科が連携して指導体制を構築する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	薬物療法専門医の資格取得を目標とする。地域医療において、専門性を生かしたがん診療を提供する。さらに、国際的な視野に立ち、研究、臨床それぞれの面で国際的なリーダーとなる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	多様な医療ニーズに対応する放射線腫瘍医養成コース						
対象者	医学研究科医科学専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	放射線治療の生物学的・物理的研究を推進し、グローバルな視野と高い技能を持ったがん研究医療人を育成する。地域社会に広く還元される研究成果の創出を基盤とし、豊かな人間性に基づく倫理観と高度な専門的知識を有し、将来、我が国のがん研究・教育・診療におけるリーダーとなり得る人材を養成する。						
修了要件・履修方法	必須科目38単位、選択科目6単位以上、計44単位以上を履修すること。海外のがん専門医療機関において4週以上の臨床実習を経験すること。論文審査を受け、最終試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目> 放射線腫瘍学総論（2単位）、放射線診断学（2単位）、放射線生物学（2単位）、放射線治療学（4単位）、放射線腫瘍学（4単位）、放射線治療計画（4単位）、高精度放射線治療学（4単位）、共通特論Ⅰ（2単位）、共通特論Ⅱ（2単位）、ほか4科目。</p> <p><選択科目> SPを用いた職業横断的臨床課題演習（1単位）、職種横断的ケーススタディ演習（1単位）ほか8科目。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当大学では共同実験研究施設および医学物理師などのスタッフが充実しており、放射線物理の研究実習に十分な体制が整っている。また国際的視野を持ったがん研究者育成を目的とし、海外研究者との交流、海外のがん専門医療機関と連携し教育を促進する。						
指導体制	大学においては、放射線治療専門医、医学物理師、放射線治療認定技師を指導教官とし、臨床現場での実習、並びに共同研究室での基礎研究をすすめる。また、麻酔科、腫瘍内科との院内ローテーションによりがん診療の幅広い知識・技能を習得させる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	放射線治療分野の臨床における指導的役割、活躍の場を広げる、より専門的役割を目指す。また研究・教育現場における指導者としての役割を目指す。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	多様な医療ニーズに対応する緩和ケアインテンシブコース（インテンシブ）						
対象者	がん医療に携わる医療従事者						
修業年限（期間）	1－2年						
養成すべき人材像	がんと診断された時からエンドオブライフにおけるがんによる痛みにおいて、痛みをコントロールする様々な方法を習得し、痛みのメカニズムや鎮痛方法の開発に繋がる研究が行える人材を養成する。						
修了要件・履修方法	【Aコース】講義および実習について下記を履修し、受講報告書を提出して、指導教員の評価を受ける。 【Bコース】講義について下記を履修し、受講報告書を提出して、指導教員の評価を受ける。						
履修科目等	講義：共通特論Ⅰ～Ⅱ 実習：210時間						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	対象者を医師のみに限らず、看護師や薬剤師も含めて幅広い参加を求める。痛みのメカニズム解明には神経系のみならず、末梢血細胞におけるゲノムや免疫系の関与も視点に入れた教育内容を含む。						
指導体制	緩和ケア専従医、ペインクリニック専門医、緩和ケア認定看護師、がん化学療法認定看護師が指導する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	緩和医療専門医、認定看護師を目指す。科学的視点をもつ緩和医療の研究者を目指す。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	1	1	1	1	1	5
	看護師	1	1	1	1	1	5
	薬剤師	1	1	1	1	1	5
	計	3	3	3	3	3	15

教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	多様な医療ニーズに対応するがん放射線治療インテンシブコース（インテンシブ）						
対象者	がん医療に携わる医療従事者						
修業年限（期間）	1～2年						
養成すべき人材像	がん放射線治療に関わる全ての医療従事者・研究者を対象に、放射線生物学、放射線物理学、高精度放射線治療等の放射線治療学に関する知識の習得を目指す人材。						
修了要件・履修方法	Aコース：講義及び実習について下記を履修し、受講報告書を提出し、指導教員の評価を受ける。 Bコース：講義について下記を履修し、受講報告書を提出し、指導教員の評価を受ける。						
履修科目等	講義：共通特論 I～II 実習：160時間						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当大学では共同実験研究施設および医学物理師などのスタッフが充実しており、放射線物理の研究実習に十分な体制が整っている。また国際的視野を持ったがん研究者育成を目的とし、海外研究者との交流、海外のがん専門医療機関と連携し教育を促進する。						
指導体制	大学においては、放射線治療専門医、医学物理師、放射線治療認定技師を指導教官とし、臨床現場での実習、並びに共同研究室での基礎研究をすすめる。また、麻酔科、腫瘍内科との院内ローテーションによりがん診療の幅広い知識・技能を習得させる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	放射線治療分野の臨床において活躍の場を広げる、より専門的役割を目指す。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師・技師・看護師	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	多様な医療ニーズに対応するがん薬物療法インテンシブコース（インテンシブ）						
対象者	がん医療にかかわる医療従事者（医師、看護師、薬剤師）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん薬物療法に関する専門知識を技能を有し、地域がん医療に貢献できるがん専門医療人を要請する。						
修了要件・履修方法	所定の講義、実習を履修して受講報告書を提出し、指導教官の評価を受ける。						
履修科目等	講義： 共通特論Ⅰ、Ⅱ 実習： 240時間						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん診療の専門家として、実施医療現場医に最新の知識と治療を提供できる人材を育成する。臨床だけでなく、ゲノムも含めた最新の内容を提供する講義を用意することで、幅広い知識の習得を目指す。						
指導体制	がんセンターが中心となり。基礎医学、臨床系、さらに薬剤部、看護部が協力し、多職種の教官による指導体制を構築する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	終了後は最新の知識と技能をもって、地域医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師・技師・看護師	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪府立大学大学院看護学研究科						
教育プログラム・コース名	ライフステージにおける課題対応がん看護専門看護師養成コース						
対象者	看護学研究科 博士前期課程 がん看護専門看護師コースの大学院生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	ライフステージにおける様々な課題に対して高度な看護実践を提供し、かつ指導的役割を果たすことで、がん医療やがん看護の質向上に貢献できる人材。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通教育科目の必修科目1単位、基盤教育科目の必修科目4単位および選択科目14単位以上を履修すると共に、専門教育科目（がん看護学分野）の講義科目8単位、演習科目4単位以上、実習科目10単位、課題研究科目2単位を含む43単位以上を修得し、課題研究の審査及び最終試験に合格すること。 						
履修科目等	<p><必修科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通教育科目：研究公正A（1単位） ・ 基盤教育科目：理論看護学（2単位）、看護学研究法（2単位） ・ 専門教育科目：がん看護学実習Ⅰ（6単位）、がん看護学実習Ⅱ（2単位）、がん看護学実習Ⅲ（2単位）、がん看護学課題研究（2単位） <p><選択科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤教育科目：看護倫理学（2単位）、看護政策学（1単位）、臨床薬理学（2単位）、病態生理学（2単位）、フィジカルアセスメントⅠ（2単位）、ほか3科目 ・ 専門教育科目：がん看護学特論（2単位）、がん看護学援助特論（2単位）、がん緩和ケア論（2単位）、がん薬物療法看護論（2単位）、がん看護学演習ⅠB（2単位）、がん看護学演習ⅡB（2単位）、家族看護学（2単位）、ほか2科目 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	AYA世代や壮年期、老年期といった様々なライフステージにおける課題として、就学・就労上の問題や妊孕性の問題、遺伝性がんの問題、認知症における意思決定や治療継続の問題等を講義・演習として取り上げ、実践知や研究論文など多様な学習教材を活用して効果的に問題解決できる方法について学べる教育内容である。						
指導体制	がん看護学を専門とする教授、准教授、助教（がん看護専門看護師）が主たる指導者となる。学内外には協力が得られるがん看護専門看護師、小児看護専門看護師、精神看護専門看護師などがおり、講義・演習における講師陣として、また実習における臨床教授、准教授、講師として院生指導にあたる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	病棟内もしくは外来相談支援室のがん看護専門看護師として、ライフステージにおける課題を抱えるがん患者・家族に個別に対応する経験を積む。その後、職種横断的活動を通して、多職種と協働しながら課題に対応するスキルを磨き、複雑な事例に対する相談にも対応できるようになることを目指す。最終的には、地域のがん医療人と連携しながらがん医療の質向上に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪府立大学大学院看護学研究科						
教育プログラム・コース名	がん患者のライフステージにおける課題対応を志向した看護師養成コース（インテンシブ）						
対象者	がん医療に携わる看護師						
修業年限（期間）	3日間（6時間×3日）						
養成すべき人材像	様々なライフステージにあるがん患者の抱える課題について理解し、がん患者が課題を克服できるような支援を考案し、実践できる人材。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・修了要件：3回すべてに出席し、指定されたテーマについてレポートを提出する ・履修方法：講義・演習（討議を含む） 						
履修科目等	<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期・AYA世代、および壮年期にあるがん患者の就学・就労支援 2. 遺伝性がん患者・家族の看護 3. 認知症のある高齢がん患者の看護 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	様々なライフステージにあるがん患者の抱える課題として、支援が行き届いていないがん患者の就業・就労や、遺伝性がん、認知症を持つ高齢がん患者の支援に焦点をあてている。それらについて、専門的立場で実践に携わっている医療者が講義を行い、演習での討議やレポート作成を通して、受講者が臨床現場で実践に結び付けられるようにする。						
指導体制	各ライフステージにおけるがん患者の支援を専門的に実践している専門看護師や医師が講義を行い、がん看護学を専門とする教員も交えて討議を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	様々なライフステージにあるがん患者の課題に継続的に関心をもち、看護実践にあたる。また、がん看護への理解や興味を深め、がん医療に携わる専門看護師等へのキャリアアップを図る。						
受入開始時期	平成30年2月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	30	30	30	30	30	150
	計	30	30	30	30	30	150

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪府立大学大学院看護学研究科						
教育プログラム・コース名	がん医療に強い専門看護師養成コース（インテンシブ）						
対象者	看護学研究科 博士前期課程 専門看護師コースの大学院生・修了生						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	様々なライフステージにあるがん患者や家族、また、医療施設だけでなく地域で暮らしているがん患者・家族に対して、多職種チームの一員として機能できる人材。						
修了要件・履修方法	修了要件：共通特論を2/3以上出席する。SPを用いた職種横断的臨床課題演習に参加する 履修方法：講義・演習						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通特論Ⅰ（2単位） ・ 共通特論Ⅱ（2単位） ・ SPを用いた職種横断的臨床課題演習（1単位） 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	先進的ながん医療についての内容を、専門的な立場にある優秀な講師陣によって講義する。医師・薬剤師を交えた多職種間で学ぶことができ、チーム医療の素地が構築される。						
指導体制	共通特論は各専門分野の講師によって講義を行う。SPを用いた職種横断的臨床課題演習は7大学大学院教員およびSP（模擬患者）が協力して講義・演習を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	各専門分野（がん看護、在宅看護、地域看護、精神看護、老年看護、小児看護、家族看護などの）の専門看護師として活動する際に、地域や医療施設にいる様々なライフステージにあるがん患者・家族を支援し、がん医療の質の向上に寄与する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	4	4	4	4	16
	計	0	4	4	4	4	16

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸市看護大学大学院看護学研究科
教育プログラム・コース名	がんサバイバー支援高度実践看護師養成コース（認定資格はがん看護専門看護師）
対象者	看護学研究科大学院生
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	がん看護専門看護師として、ライフステージに応じたがん患者への支援（AYA世代のがん患者や壮年期がん患者、高齢者のがん患者やその家族）や地域完結型の高度ながん看護を実践することができ、あらゆるライフステージのがん患者や家族のQOLの向上に貢献できる人材を養成する。
修了要件・履修方法	・大学院必修科目 8 単位、高度実践看護師コース選択必修科目 4 1 単位以上を履修し、最終試験に合格すること。
履修科目等	<p><必修科目> 看護学研究概論（2 単位）、教育心理学（2 単位）、英語プレゼンテーション（2 単位）、課題研究（2 単位）、 <専門看護師コース選択必修科目>看護倫理学（2 単位）、理論看護学（2 単位）、コンサルテーション論（2 単位）、臨床薬理学（2 単位）、病態生理学（2 単位）、フィジカルアセスメント（2 単位）、がん看護学特講（2 単位）、がん看護学実習Ⅰ（2 単位）、がん看護学実習Ⅱ（2 単位）、がん看護学実習Ⅲ（3 単位）、がん看護学実習Ⅳ（3 単位）、がん看護援助論Ⅰ（2 単位）、がん看護援助論Ⅱ（1 単位）、がんの分子生物学（1 単位）、がん治療論Ⅰ（2 単位）、がん治療論Ⅱ（1 単位）、がん薬物療法看護看護特論Ⅰ（2 単位）、がん薬物療法看護特論Ⅱ（2 単位）、がん薬物療法看護特論Ⅱ（2 単位）、ピアティブケア特論Ⅰ（2 単位）、ピアティブケア特論Ⅱ（2 単位）</p> <p><選択科目> 家族危機看護論（2 単位）、コラボレーション看護論（1 単位）、コラボレーション実習（1 単位）、看護管理学（2 単位）、共通特論Ⅰ（2 単位）、SPを用いた職種横断的臨床課題演習（1 単位）、ほか7 科目</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	今回の教育内容は、がん看護専門看護師育成において積み重ねてきた内容に加えて、ライフステージに応じた高度ながん看護実践や地域完結型の高度ながん看護実践を提供できる力を培うために工夫した教育内容である。大学院生がこれらの内容を効果的に修得できるように講義と実習、個別指導を組み込んだ教育方法を実施していく。
指導体制	専任教員 3 名（がん看護分野教授 1 名、講師 2 名） 非常勤講師 1 8 名（医師、がん看護専門看護師、地域看護専門看護師、在宅看護専門看護師、他大学看護系教員など）
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	大学院修了後は病院や訪問看護ステーション等で、がん看護専門看護師として、あらゆるライフステージにあるがん患者や家族に対する高度な看護実践を提供するとともに、がん看護に活用できる理論や経験知を活用し看護チーム全体の実践力を高めるためにメンバーに教育的に関わることができる。さらに、研究成果を活用し看護ケアの質向上のためにがん看護を変革していくリーダーとして活躍することや、大学院博士後期課程に進学し大学教員として後進の教育を担っていくことも可能である。

受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	6	2	2	2	12
	計	0	6	2	2	2	12

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸市看護大学						
教育プログラム・コース名	がんサバイバーの課題に応じた高度がん看護実践者育成コース（インテンシブ）						
対象者	主にがん拠点病院でがん看護に5年以上従事している看護師、専門看護師、認定看護師						
修業年限（期間）	2か月（5回）						
養成すべき人材像	ライフステージに応じた個別性の高い複雑な問題を抱えているがん患者と家族に対して、必要とされる直接的な看護実践能力や他職種との調整技術を習得するとともに、スタッフにも教育的なかかわりができる人材。						
修了要件・履修方法	講義40時間を履修すること。80%以上の出席と課題レポートを課し評価する。						
履修科目等	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんサバイバーシップの理解 2. がんサバイバーが抱える課題と支援：性に関わる課題（妊孕性、性機能障害）、社会的課題（経済的問題、就労問題、子育てに関する問題）、心理的課題（発達課題など）、アピアランスケア 3. ライフステージに応じたがん対策支援 4. サポートグループ・がんサロンの運営および患者会・当事者の体験の理解 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コース受講者は、すでにごん看護実践において、リーダー的役割を担っている看護師が、がんサバイバーが抱える様々な課題に対してより専門的な知識や高度な技術を提供することを目的としている。基礎知識のみならず、包括的アセスメント、高度な実践、評価について学び、課題に対して新たな解決方法を見出し、力を発揮できる人材を養成する。 また、ジェネラリストへの教育や他職種との連携システムの構築にも貢献できる。						
指導体制	専任教員3名（がん看護分野教授1名、講師2名） 非常勤講師（がん看護専門看護師、リエゾン精神看護専門看護師、化学療法看護・緩和ケア認定看護師、ソーシャルワーカー、精神科医など）						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、各病院にて、患者・家族に対して直接的な看護実践を提供するとともにスタッフに対して教育的役割を担うことができる。また、コース修了後には、事例検討会を実施し、グループで継続的に研鑽する機会を設け、他施設での取り組みを学び、また自身の実践のリフレクション、実践知の共有の場とする。						
受入開始時期	平成30年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	0	30	30	30	30	120
	計	0	30	30	30	30	120

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸市看護大学						
教育プログラム・コース名	地域がん看護実践者育成コース（インテンシブ）						
対象者	地域で生活しているがん患者と家族へケアを提供している訪問看護師や地域の病院・施設の看護師						
修業年限（期間）	2か月（5回）						
養成すべき人材像	地域で生活するがん患者と家族に対して、治療期～慢性期～エンド・オブ・ライフ期と包括的に質の高いがん看護実践ができ、地域完結型のがん医療の推進ができる人材。						
修了要件・履修方法	講義36時間を履修すること。80%以上の出席と課題レポートを課し評価する。						
履修科目等	<ol style="list-style-type: none"> がん医療における地域包括ケア論（8時間） ：地域包括ケアシステム、外来がん治療、がんサポーターシップケアなど エンド・オブ・ライフケア論（20時間） ：ELNEC-Jコアカリキュラム 家族看護論（8時間） ：家族看護理論、グリーフケア 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	緩和ケアを含む地域完結型のがん医療と介護の推進を目指して、1 エンド・オブ・ライフケア、2 がん医療における地域包括ケア、3 遺族ケアを含む家族看護に関する知識・技術に関する教育内容であること。 地域で生活をするがん患者と家族を支える人材を育成するという新たな視点で、がん看護や緩和ケアに関する教育機会の少ない、訪問看護師や地域の病院・施設の看護師を対象としており、基本的ながん看護を提供できる看護師の教育内容としていること。						
指導体制	専任教員4名（がん看護分野教授1名、講師2名、在宅看護分野教授1名） 非常勤講師（がん看護専門看護師、緩和ケア・訪問看護認定看護師など）						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、地域における基本的ながん看護・緩和ケアの担い手として、質の高いがん看護実践ができる人材である。修了生仲間とネットワークを創り、地域のがん看護を担う後進看護師の相談や支援を提供する役割も担うことが可能である。その後のキャリアとしては、希望があれば大学院進学についての情報を提供し、専門看護師への道を進めていきたい。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	訪問看護師	10	10	10	10	10	50
	地域の病院・施設の看護師	10	10	10	10	10	50
	計	20	20	20	20	20	100

7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン

7大学9学部連携 医薬看理工融合型 がん専門医療人養成拠点

